

資料2	令和6年3月22日
	第32期青少年問題協議会 第3回定例協議会

豊島区子ども・若者の実態・意識に関する調査

3/22 案

令和6年3月

豊 島 区

目 次

第1章 調査の実施概要	1
1 アンケート調査の実施概要	1
1-1 調査目的	1
1-2 調査期間と方法	1
1-3 調査対象	1
1-4 調査結果の見方	2
2 ヒアリングの実施概要	3
2-1 目的	3
2-2 調査期間と方法	3
2-3 調査対象	3
2-4 ヒアリング項目	3
第2章 ヒアリング結果の概要	4
1 全体の傾向	4
2 設問ごとのまとめ	7
2-1 居場所・ホッとできる場所	7
2-2 学校に関すること	7
2-3 子どもの社会参加や意見表明に関すること	7
2-4 虐待やいじめの経験に関すること	8
2-5 悩みや不安、相談に関すること	9
2-6 自己肯定感に関すること	9
2-7 区の施策に関すること	10
第3章 アンケート調査の詳細分析	12
1 家庭の社会経済的背景（SES）の最下層の困難な環境に対応する力（レジリエンス）の分析	12
1-1 分析方法	12
1-2 分析結果のまとめ	13
1-3 困難な環境に対応する力（レジリエンス）	14
2 子どもの意見は大切にされているか	21
2-1 家庭での子どもの意見について	21
2-2 学校での子どもの意見について	23
2-3 地域での子どもの意見について	26
3 支援機関や団体の連携・協力状況	28
第4章 アンケート調査結果	34
1 回答者属性	34
1-1 年齢	34
1-2 子ども・若者の家族構成	34
1-3 高校生等の状況	34
1-4 若者の状況	35
2 困難を抱える状況	37
2-1 広義のひきこもり群	37

2-2	<広義のひきこもり群の定義の概要>	37
2-3	生活困難について	38
3	子どもがいる世帯の状況、子どもの学力と幸福度.....	39
3-1	婚姻や世帯構成	39
3-2	生活困難の状況判断の項目とその関連状況	44
3-3	家庭の社会的経済的背景(SES)と困難な環境に対応する力(レジリエンス)を判断する項目とその関連状況.....	53
4	豊島区子どもの権利条例について	56
4-1	豊島区子どもの権利条例について	56
4-2	7つの子どもの権利が守られているか	62
4-3	子どもの意見表明について	65
5	支援者から把握した状況	72
5-1	回答者属性	72
5-2	支援者から見た子どもの状況	72
5-3	支援者の状況	77
6	子どもから把握した状況	94
6-1	ふだんの環境	94
6-2	過ごす環境の評価	104
6-3	社会的情動(非認知能力)	110
6-4	将来展望	115
6-5	外出状況、落ち込んだ経験	122
6-6	つながり	137
6-7	相談機関や施策	147
7	保護者から把握した状況	152
7-1	放課後の居場所と進学	152
7-2	子どもや地域との関わり方	155
7-3	いじめや虐待	161
7-4	支援制度や相談、子育て施策	164
7-5	就学前児童に関する相談や周囲からの支援	180
7-6	保護者の状況	185
7-7	子育て支援事業の利用状況	188
第5章	自由記述	199
1	就学前保護者	199
2	小学生保護者	237
3	中高生保護者	258
4	小中学生	273
5	高校生	278
6	若者	279
7	地域団体等	285
8	区施設職員	289

第1章 調査の実施概要

1 アンケート調査の実施概要

1-1 調査目的

「豊島区子ども・若者総合計画」（令和2年3月策定）を改定するにあたり、豊島区の子どもや若者に関する施策に役立てるため、子どもの生活実態や子育て支援に関するご意見をお伺いしました。

1-2 調査期間と方法

調査期間：令和5年11月10日（金曜日）から12月1日（金曜日）

調査方法：郵送による配布、郵送およびWEBによる回収
（区民対象調査については礼状を兼ねた督促を実施）

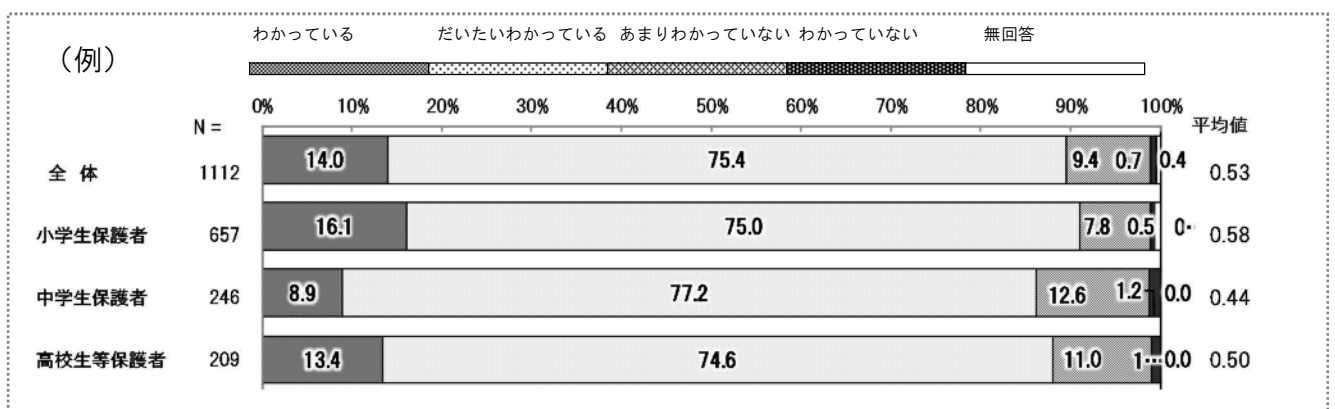
1-3 調査対象

調査票種類	対象者	配布数		回収数		回収率	
就学前児童保護者	0～5 歳保護者	1,500		816		54.4%	
小学生保護者	小学 1 ～ 3 年生保護者	1,500	750	657	376	43.8%	50.1%
	小学 4 ～ 6 年生保護者		750		281		37.5%
中高生保護者	中学生保護者	750		466	246	31.1%	32.8% *
	高校生保護者	750			209		27.9% *
	（無回答）				11		—
小中学生	小学 4 ～ 6 年生本人	750		213		28.4%	
	中学生本人	750		180		24.0%	
高校生	高校生本人	750		148		19.7%	
若者	18～29 歳若者	1,500		280		18.7%	
地域団体等		350		220		62.9%	
区施設職員		300		278		92.7%	
計		8,900		3,258		36.6%	

* 無回答をのぞく

1-4 調査結果の見方

- ・ 本文、図表において、調査票の設問文や選択肢は簡略化して表記することがあります。
- ・ 図・表中の N、調査数とは、調査の回答者の実数を表します。
回答は N（調査数）を 100%とした百分率で算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、各比率の合計値と全体の比率、図表の比率の合計値として記載した本文の比率と図表に記載された数値の合計が一致しないことがあります。
- ・ 複数回答（あてはまるものすべてに○）の比率の合計は、100%にならず、超えることもあります。
- ・ 程度を把握する設問については、集計区分間で比較しやすいよう、例えば、「そう思う」～「そう思わない」の 4 件法であれば、「そう思う」を 1.5、「どちらかといえばそう思う」を 0.5、「どちらかといえばそう思わない」を-0.5、「そう思わない」を-1.5 と、まん中の評価を 0 としたプラスとマイナスで点数化し、
その平均値を算出してグラフ右側に掲載しました。



- ・ （複数回答）については、「無回答」を掲載していません。

2 ヒアリングの実施概要

2-1 目的

「豊島区子ども・若者総合計画」（令和2年3月策定）を改定するにあたり、豊島区の子どもや若者に関する施策に役立てるため、個別の支援を要する子どもについて、各関係機関の協力を得て個別インタビュー形式のヒアリング調査をおこないました。

2-2 調査期間と方法

調査期間：令和5年12月から令和6年2月

調査方法：区職員または当該団体職員によるインタビュー形式（1人20分程度）にて聞き取りを行い、事務局職員が記録しました。

2-3 調査対象

	区分	概要
困難を抱える子ども・若者	障害児	障害児受け入れのある子どもスキップ
	不登校・ひきこもり	教育センター 柚子の木教室
	外国ルーツ	左記の子どもを支援する団体
	多様な性自認・性的指向の人々	左記の子どもを支援する団体
	虐待・DV	豊島区児童相談所一時保護所
子どもの居場所	子どもスキップ	学校の教室、校庭、体育館等を活用した、小学生の放課後の居場所
	中高生センタージャンプ	主な利用対象者を中高生等とした児童厚生施設(児童館)
	子ども食堂	運営団体
	プレーパーク	運営団体

2-4 ヒアリング項目

	概要
1	楽しいときや安心できるとき（新規）
2	悲しいとき（新規）
3	子どもの居場所・ホッとできる場所
4	学校に関すること
5	子どもの意見表明や社会参加に関すること
6	虐待やいじめの経験に関すること
7	悩みや不安、相談に関すること
8	子どもの自己肯定感に関すること

第2章 ヒアリング結果の概要

全体傾向を示すとともに、ヒアリング項目ごとの回答内容を掲載しています。ヒアリング調査によって、アンケート調査では把握できない子どもの実態や要望を確認できました。

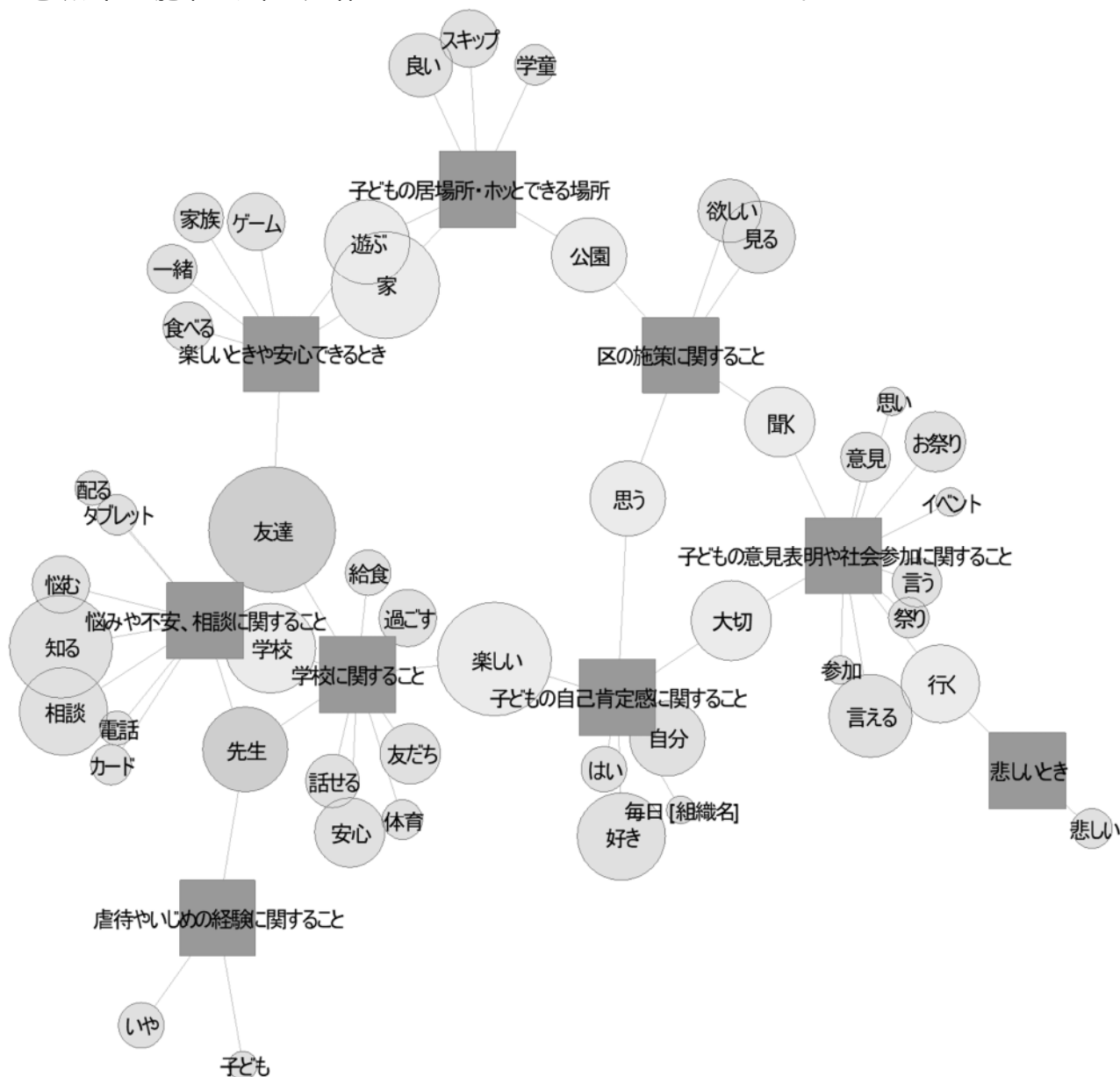
1 全体の傾向

子ども達へのヒアリングの全体傾向をテキストマイニング（KH Corder）^{*1}で、①保護者や学校との関係が良好であると思われる子どもたち、②保護者や学校との関係に課題があると思われる子どもたちについて、分析しました。

^{*1} テキストマイニングとは、自由な形式で記述された文章を自然言語処理の技術により単語や文節に分割してその出現頻度や相関関係等を分析し、有益な情報を探し出す技術のことです。

1-1 1) 保護者や学校との関係が良好であると思われる子どもたちの傾向

四角で示しているものが質問（ヒアリング）項目であり、丸で囲まれているものがそれらの質問に対する回答キーワードの分布です。「子どもの自己肯定感」は“楽しい”というキーワードで「学校」とつながり、「学校」と「悩みや不安の相談」は、“友達”や“先生”というキーワードで繋がっています。さらに、“友達”は「楽しいときや安心できるとき」と「学校」を繋ぎ、さらに“家”が「楽しいときや安心できるとき」と「子どもの居場所・ホッとできる場所」につながるというように、子ども達をいろいろな面で育成・支援している、家庭、学校、地域、区の施策が、社会全体でループのようにつながっていました。



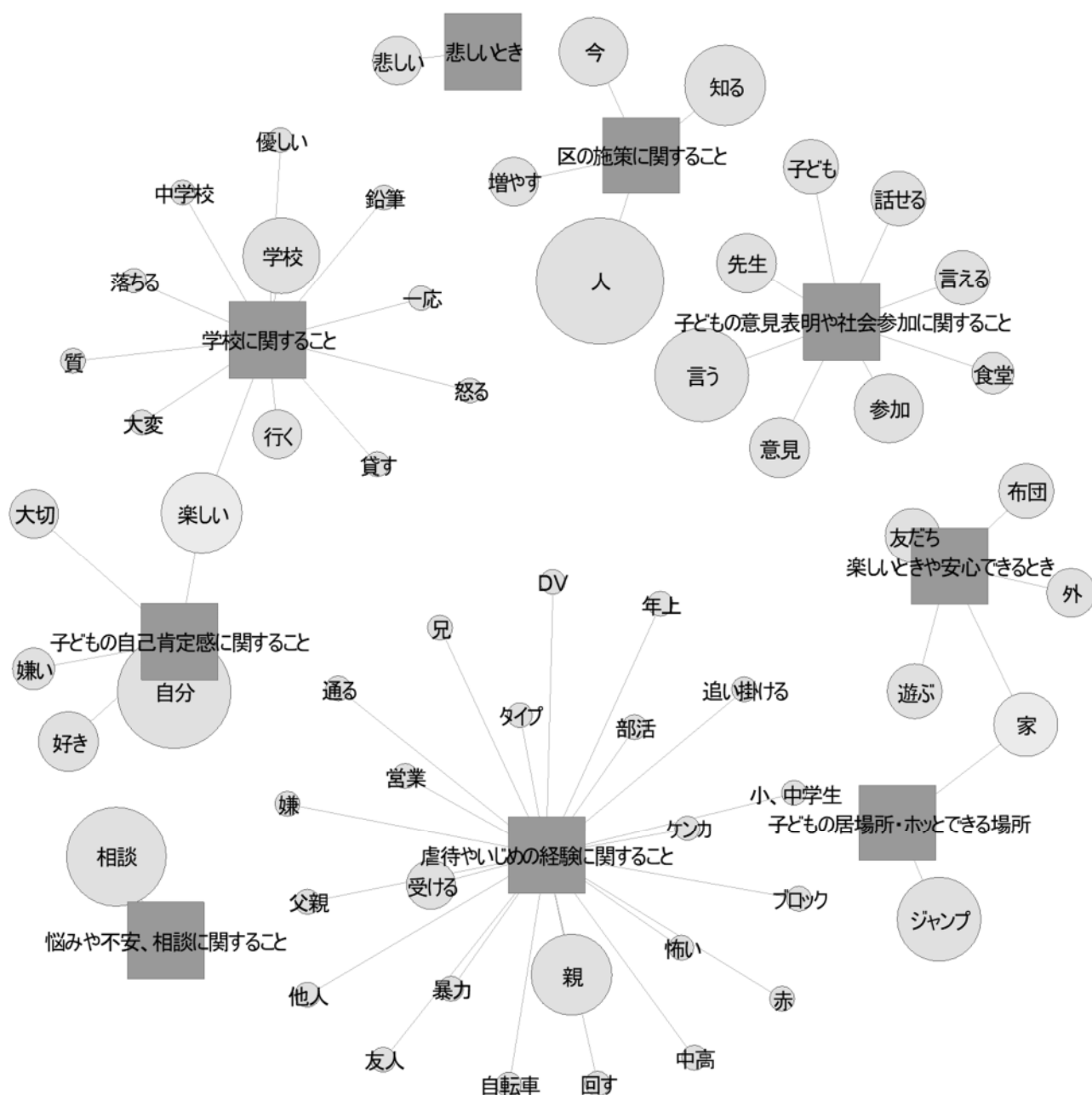
(KH Corder による分析)

1-1 2) 保護者や学校との関係に課題のあると思われる子どもたちの傾向

一番大きな特徴は、「虐待やいじめの経験」の質問に対して、多く回答がありました。

また、「自己肯定感」と「学校」が“楽しい”というキーワードで結びついていること、「楽しいことや安心できるとき」と「子どもの居場所・ホッとできる場所」が“家”というキーワードで結びついていることは、保護者や学校との関係が良好であると思われる子どもたちと同じですが、「学校」と「楽しいときや安心できるとき」や「悩みや不安の相談」が結びついていないなど、全体としてみるとそれぞれのテーマ間の結びつきが弱く、一つ一つが独立しているように見えました。

以下に質問項目ごとの回答内容を掲載します。課題のある子ども達も、自己肯定や意見表明・社会参加、子どもの居場所等に対して前向きにとらえる回答が多くありましたが、上記に見るとおり、社会全体との結びつきが弱いことがうかがわれました。



(KH Corder による分析)

2 設問ごとのまとめ

2-1 居場所・ホッとできる場所

2-1 1) 放課後、どこで過ごすか

ヒアリングを行った施設や、公園、サッカーやドッジボール、友人とのカードゲームの他、家で過ごすという回答が多くありました。特に、ほとんどの子どもは、ヒアリングを行った施設に対する肯定的な意見を持っていました。

前述したテキストマイニング結果にも表れていますが、保護者や学校との関係に課題のある子ども達においては、過ごす場所が家もしくは施設に限られていることがうかがわれます。

2-1 2) ホッとできる場所はどこか

自分の家やヒアリングを行った施設を挙げる回答が多くありました。家の中でも、家族のいるところを挙げる子もいれば、こたつや布団の中だと一人でいることが安心できるという回答もありました。

2-2 学校に関すること

2-2 1) 学校は楽しいか

多くの子どもが学校は楽しいと回答しました。

一方で、「勉強と先生がいなければ楽しい」、「先生が女子をひいきする」「給食を残しちゃいけないと言うけど、先生は残す」「友達に鉛筆を貸しただけで先生に怒られた」等、先生の問題点を指摘する回答がありました。不登校の子どもは、学校は楽しくない、大変だった、と回答しています。

2-2 2) 学校には何でも話せる友だちや先生がいるか

多くの子どもは、何でも話せる友だちや先生がいると回答しています。「自分の気持ちを友だちに伝えるのが楽しい」という意見もありました。

一方で、「話ができる先生や友達はいない」「いじめについては相談できない」という意見もありました。

2-2 3) 学校で休み時間や放課後に安心して過ごしているか

多くの子どもは、安心して過ごしていると回答しています。「友達に暴力を振るわれたけどケンカはしなかった（やり返さなかった）」という回答をした子もいました。

2-3 子どもの社会参加や意見表明に関すること

2-3 1) 周りの大人に言いたいことを言えているか。あなたの意見や思いを大切にしてくれるか

意見を言えている子もいれば言えていない子もいます。

言えていない子の回答では、小学生の回答では、「意見を言えない。言えることはない」、「恥ずかしかったり、怖い人には言えない」、「あまり話さない、他の大人ともあまり話さない」、「あ

んまりしゃべらないから良く分からない。話をすれば話を聞いてくれる」、「心配されちゃうから言えない」、「言いにくいときもある。怒られるかもしれないって思ってしまう」など、自分から大人への意見の出し方に悩んでいる意見が多くありました。

一方で、中高生や若者では、「家族には言えないが、施設の職員には言える」、「聞いてくれる人と、聞いてくれない人がいる。だいたい聞いてくれない」、「意見を言ってもしょうがないけど、必要なことを、人を選んで聞いている」、「学校では先生とは立場が違うし、意見を言っても何にもならない。生徒会なんかでも、みんな自分の意見を言わない。言っても変わらないのが現状」と、意見表明をおこなう事については前向きにとらえていて自分なりに行動していることや、意見を聞く側の問題点を指摘する意見が出されました。

また、LGBTQ においては、9割の子どもが理解の無い親との関係に困っているという意見がありました。

2-3 2) 地域の行事に参加しているか

参加しているという意見が多数であり、地域の神社のお祭りや各施設のイベントに参加した経験を持っている子が多くいました。おみこしを担いだり、屋台を出したり、ゴミ拾いをしたりしてより積極的に参加している子もいます。また、ボランティアとして子ども食堂の洗い物や配布の手伝いをしている子もいました。中高生センタージャンプでは、自分達で企画をしてイベントを行ったり、地域の獅子舞に参加していたりします。地域イベントのイラストやポスターを作成したりしている子もいました。

2-4 虐待やいじめの経験に関すること

2-4 1) 周りの大人から嫌なことをされたことがあるか

無い、もしくは、無回答が多数でした。

しかし中には、「父親からDVを受けていた」、「兄からいじめを受けていた」、「親やバイト先で嫌なことをされた」、「赤の他人に自転車で追い掛け回された」、「知らない人に「お金を貸して」と言われて逃げた」という意見がありました。

また、「先生は、子どもにやってはいけないということを自分はする」、「区役所に小、中学生の時、友達の親を通じて相談したけど、何もしてくれなかった」と、先生や区の対応に対する問題点を指摘する意見もありました。

2-4 2) 友だちや先輩、後輩から嫌なことをされたことがあるか

無い、もしくは、無回答が多数でした。

しかし、「小学1～3年はあった。3年生の時、校長先生への報告が多かったようで、解決した」、「小学3年生のときに学校に行けなかった」「たまに友達に無視されたり、「ふざけるな」といわれた」、「子ども同士で殴られて先生に病院に連れていってもらった」と、小学校低学年におけるいじめについての話がありました。また、「(日本語が話せなくて)小学生の時に差別にあった」という外国ルーツの子どもの経験もありました。

中高生以上では、「中高の部活でいじめられていた」、「何回も友だちとケンカした、暴力を受けた」、「無いわけでもないけど、何とかなっている。それも人生の経験だと思っている」という意見が出されました。

2-5 悩みや不安、相談に関すること

2-5 1) 悩んでいることや不安に思っていること

無い、もしくは、無回答が多数でした。

小学生では、友達や先生との関係、「中学生になったら友達ができるか心配」という悩みがありました。また、中高生以上では、将来への不安や自分の人間性、学校がつまらない等の不安などが出されていました。また、「バスケをしていて怪我をしたが、手術をすると1年間休まなければならなくなるので、コーチや友達と相談している」と具体的な悩みを話してくれる子もいました。

2-5 2) 悩んでいるとき誰に相談するか

親や兄弟、仲の良い友達、先生に相談するという意見が多数ありました。また、ヒアリングを実施している施設の職員に話をするという意見もありました。

一方で、「誰にも相談しない」、「解決できそうな悩みは相談している」、「アンケートみたいなものはあったけど、特に回答はしなかった」、「言えない」等の意見も出されています。

LGBTQ の子どもは、「悩みを言っても理解してもらえない」と感じており、「親にも相談できず、誰にも相談できる状況ではない。親や学校に対する LGBTQ への理解促進が必要である」という意見がありました。

2-5 3) 子どもの相談を受け付ける区の施設や窓口で、知っているところはありますか

アシス等を実際に利用したことがあるわずかな子ども以外は、相談窓口を知っている子どもはいませんでした。ただ、半数ぐらいの子どもは、(中身は良く分からないけれど) なやミミカードやパンフレットを見たことがあると答えています。特に、なやミミが訪問する施設においては、なやミミに会えることをとても楽しみにしている子どもがいました。「すいトリちゃんにも会いたい」という意見がありました。

2-5 4) 悩みや不安を相談する場合、どのようなところなら利用しやすいか

家や学校、家に近い喫茶店など身近なところで相談をしたいという反面、「悩んでいる子は親に携帯を止められたり、管理されているので使えないから。親などに絶対に言わないで欲しい」という意見も出されています。

区の相談窓口に対しては、「アシスとお話に相談したことがある。ニックネームで安心して相談できた」、「役所の執務室(机にパソコンあるところの隣の小部屋)は仰々しい。外に出てきてほしい」、「アウトリーチしてほしい。相談できる人が利用者の近くに来てほしい」、「児相の機能を区役所に入れてほしい」と多様な意見が出されました。

ネットの利用については、「電話は使わない」、「匿名で対面が良い」という反面、「ネットでその人の意見が出されていて、どんな人がちゃんと分かっていると相談しやすい」という意見もありました。

2-6 自己肯定感に関すること

2-6 1) 自分のことは好きか

ほとんどの子どもは自分の事を好きと答えています。

嫌いだという子どもからは、「自分のことは嫌い」、「自分は嫌い。自分に自信を持ってない」、「他人と比較すると劣等感しかないから、比較しない」、「出来ないことがあると自分にムカつく。友達が出来て自分が出来ない時にムカつく」という意見が出されています。

2-6 2) 毎日は楽しいか

楽しいと答えている子が、多数でした。楽しくないという子からは、「あまりよくない、自分は厳しい」、「楽しい」の意味はわからない、「毎日は楽しくない」という意見が出されています。

2-6 3) 親や友だちなど、周りから大切にされていると思うか

大切にされているという意見が多数でした。大切にされていないという子からは、「親からはされていない。友だちからはされている」、「片方の親からはされていない。もう一方からはされている」、「施設のスタッフからは大切にされているが、自分がそれに応えられていない」という意見が出されています。

2-7 区の施策に関すること

2-7 1) 「豊島区子どもの権利条例」を知っているか、子どもの権利が守られていると思うか

子どもの権利条例を知っているかの問に対しては、知らない、なやミミやパンフレットを見たことはあるが権利については良く知らないという意見が多数でした。

子どもの権利が守られているかどうかについては、多くの子どもが守られていると答えていて、具体的には、「ホールを使おうとした時に場所を譲ってもらった」、「自分の住んでいた国(シンガポール)に比べて豊島区は楽しい場所だと思っている」という意見がありました。

一方で、権利が守られていないという子ども達からは、「髪を伸ばしたいと先生に中学に相談して、校長も対応してくれたけど、ダメだった」、「若い世代(平成 25~30 年生まれ)は権利について理解があるけど、自分の親の世代(40~50 歳)は無理だと思う」、「教職や役所の人は知っているだろうが、他の人は知らないのではないか」という意見が出されました。

2-7 2) 区役所にやって欲しいことは何か

まず公園に対する要望が多くだされ、特に「野球やサッカーができる公園を増やして欲しい」が複数出されています。さらに、「室内プレーパークを作って欲しい」、「サバイバルゲームを公園でやりたい」、「おもちゃを増やして欲しい」、「区役所の自然のあるところに、魚の種類を増やして欲しい」などという意見が出されています。

また、自分が利用している施設(ヒアリング実施施設)をもっと増やして欲しい、子ども食堂を増やして欲しいなどの意見が多く出ました。

一方で、区役所に対する意見として、「正直、役所はポンコツ。話を聞いて「そうなんですね〜」「早く動いて欲しい」と伝えたくて、何もしてくれなかった。三年前の高校生の時に中学生の妹のことを相談した」、「今、ストレス多く、人と話したいが、中身の無い役所の人と話したくはない。心理師さんと話ができるならいいが、常時いるわけではない」、「子ども若者課の人は話しやすい人が多いが、他の課の人の対応がかなり事務的で流れ作業になっている」と、区の対応に対する意見が出ています。

また、LGBTQ に対しては、学校だけでなく、各課の計画に LGBTQ の施策を取り入れて欲しい。海外ルーツや障害と同じように、区の施策の柱立てにして欲しいという意見が出されています。

2-7 3) やってみたいことはなにか

それぞれの子ども達が、自分の趣味や将来の夢について話をしてくれました。「プレーパーク

を作りたい」、「ちゃんとしたごみ拾いをしたい」、「この世のものを買い取って貧しい人にあげる」、「中学生が外と交流できる機会が欲しい」、「人間性を否定されてきたが、これまで散々言われてきたけど、それを何とかして、言ってきた人たちの鼻をへし折ってやりたい」等の意見が出されました。

第3章 アンケート調査の詳細分析

第4章のアンケート結果のうち、豊島区の子どもや若者に関する施策に役立てるため、次の3つについて、詳細分析をしました。

- 1 家庭の社会経済的背景（SES）の最下層の困難な環境に対応する力（レジリエンス）の分析
- 2 子ども意見は大切にされているか
- 3 支援機関や団体の連携・協力状況

1 家庭の社会経済的背景（SES）の最下層の困難な環境に対応する力（レジリエンス）の分析

1-1 分析方法

家庭の社会経済的背景（SES:Socio-Economic Status）は学力などに強い影響があると言われています。家庭の社会経済的背景（SES）最下層の家庭の子どものうち、学校の成績が高い、あるいは幸福度が高い子どもについて、保護者とのかかわりや子どもの社会的情動（自己肯定感などの非認知能力）を把握することで、困難な環境に対応する柔軟さ・回復力（レジリエンス）となる要因を分析しました。

分析にあたっては、国際比較学力調査(PISA)、平成25,29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究（文部科学省調査、国立大学法人お茶の水女子大学「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した 学力に影響を与える要因分析に関する 調査研究」「保護者に対する調査の結果と学力等との関係の 専門的な分析に関する調査研究」）で採用された方法を参考としました。

区分基準	SES 4 区分		レジリエンス区分			
			成績		幸福度	
家庭の社会経済的背景(SES)	最上層 Highest SES	等価世帯収入※2と両親の学歴（教育年数、例：大学卒業は16年間）を標準化した上で平均値を算出し、その高低で4区分した。 なお、社会学において家庭環境（社会経済的背景）は、所得、学歴、職業の3つの要素からなるとされており、数値に変換することが難しい職業以外の所得、学歴を区分対象とした。（平成25,29年文部科学省調査より）	SES 上位 3/4 でまん中以上	成績が「上のほう」「やや上のほう」「まん中あたり」	SES 上位 3/4 でとても幸福	「しあわせだと思いますか」の間に、「とても幸福」
	準上層 Upper SES		SES 上位 3/4 でまん中以上	成績が「上のほう」「やや上のほう」「まん中あたり」	SES 上位 3/4 でまあ幸福か幸福でない	「しあわせだと思いますか」の間に、「まあ幸福か幸福でない」
	準下層 Lower SES		SES 最下層で下のほう	成績が「下のほう」「やや下のほう」	SES 最下層でとても幸福	「しあわせだと思いますか」の間に、「とても幸福」
	社会的経済背景に対する回復力		SES 最下層で下のほう	成績が「下のほう」「やや下のほう」	SES 最下層まあ幸福か幸福でない	「しあわせだと思いますか」の間に、「まあ幸福か幸福でない」

レジリエンスがある子どもの特長を分析

※2 世帯収入を世帯人数の平方根で割ってひとりあたりの世帯収入として調整したもの。光熱水費や住居費などの世帯ごとに要する生活費は、世帯人数が多くなるにつれて割安となる傾向があるため、世帯人数の平方根で割って調整する。相対的貧困率の算出と同じ計算方法。

子どもの成長を測る指標は、学校の成績だけではないことから、本調査におけるレジリエンスを測る指標は、学校の成績と幸福度としました。区分（判断）した設問については、「第4章 3-3 家庭の社会経済的背景(SES)とレジリエンス判断の項目とその関連状況」を参照してください。

また、この分析は、「第4章 2-2 生活困難層について」で示した生活困難層が抱える困難に、どのように対応するとよいかの示唆をえるため、生活困難層と一般層との差が有意であった項目（第4章6，7に分析を記載）を対象としました。

1-2 分析結果のまとめ

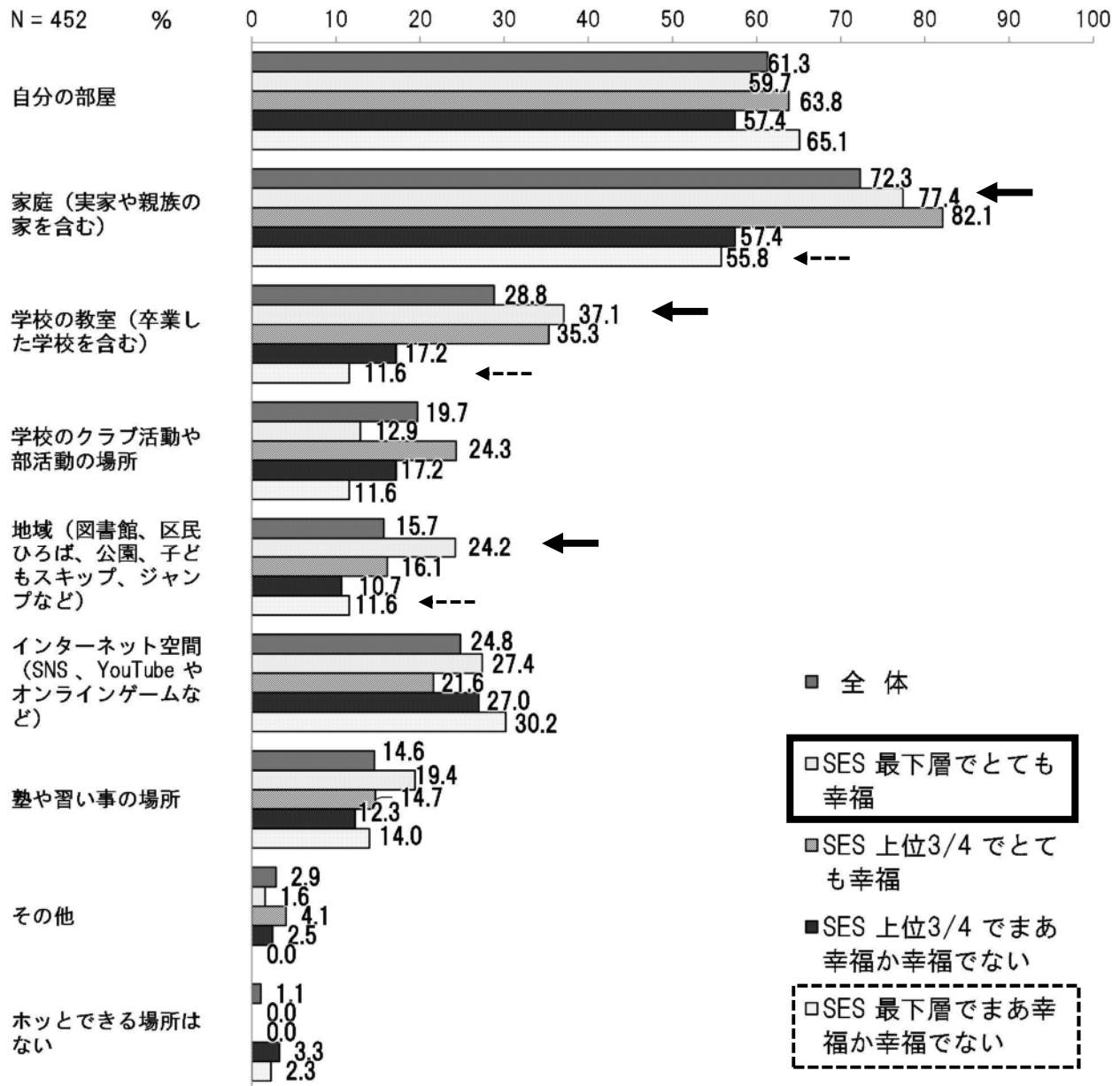
SES 最下層で学校の成績がよい、あるいは幸せと感じている（レジリエンスがある）子どもとその保護者は、次のような傾向があることがわかりました。

分析項目	対象	傾 向	
成績と幸福感	子ども	・ 先生が自分の意見や気持ちを聞いてくれている ・ 学校で自分のペースで過ごすことができている ・ 20 年後には子どもを育てていると思っている ・ 担任の先生と毎日やりとりしている	
	幸福感	子ども	・ 家庭（実家や親族の家を含む）、学校の教室（卒業した学校を含む）、地域（図書館、区民ひろば、公園、子どもスキップ、ジャンプなど）でホッとできている
	成績	子ども	・ 子どもが親と毎日やりとりしている
	保護者	・ 子育ての相談、重要な事柄の相談、いざという時のお金の援助で頼れる人がいる	

1-3 困難な環境に対応する力(レジリエンス)

■ 1-3-1) あなたにとってホッとできる場所はどこですか (複数回答)

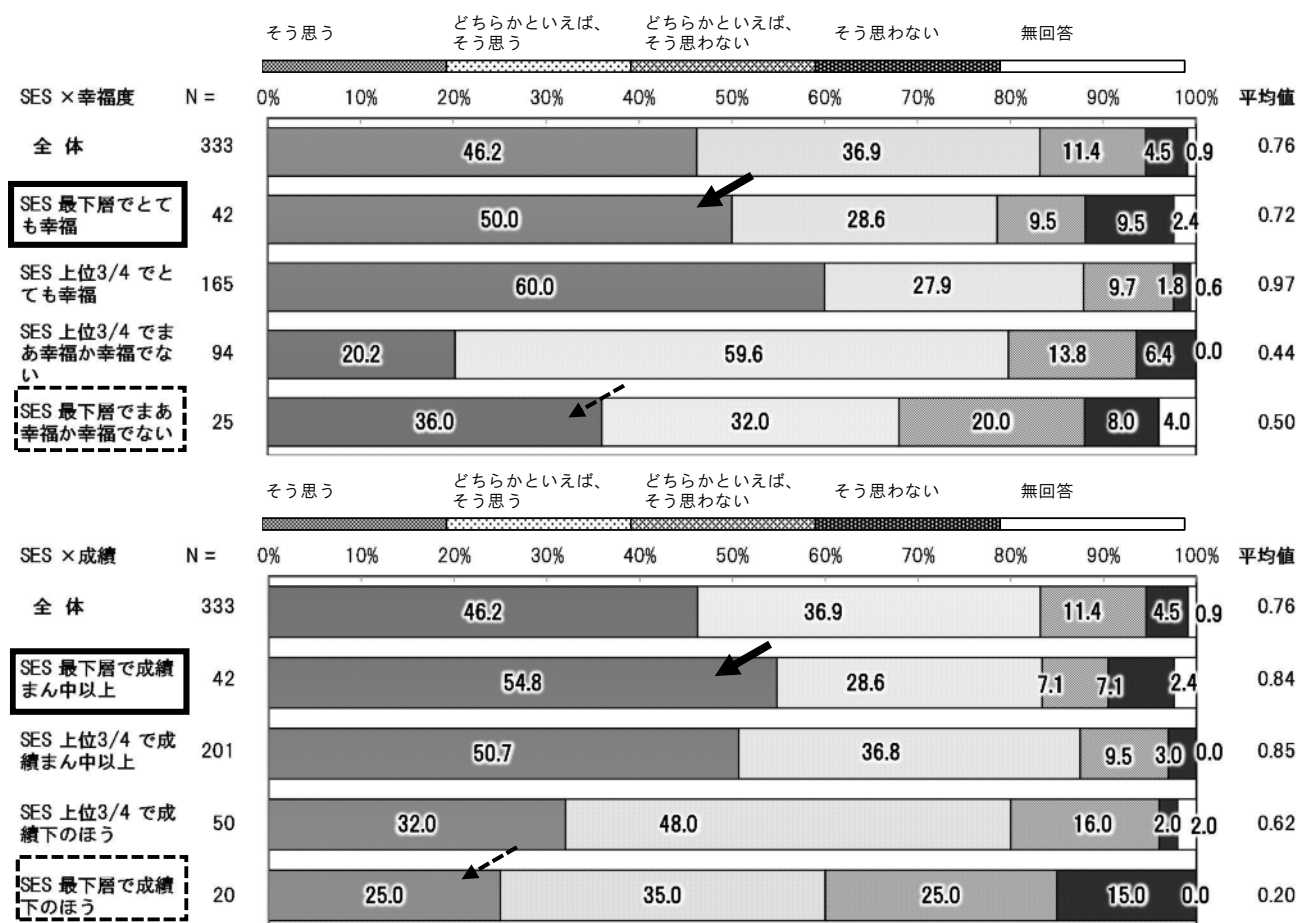
- ・『SES 最下層でとても幸福』な子どもは、「家庭（実家や親族の家を含む）」が 77.4%、「学校の教室（卒業した学校を含む）」が 37.1%、「地域（図書館、区民ひろば、公園、子どもスキップ、ジャンプなど）」が 24.4%で、『SES 最下層でまあ幸福か幸福でない』子どもの 11.6%より多く、『SES 上位 3/4 でとても幸福』な子どもと同じ、あるいは、上回りました。
- ・家庭の経済社会環境が厳しいなかで、家庭、学校の教室、地域でホッとできることと幸福と感ずることには、関連がある可能性があります。



小中1 高2)

■ 1-3-2) 学校生活について、次のことがどれくらいあてはまりますか。：イ 先生はあなたの意見や気持ちを聞いてくれる SA

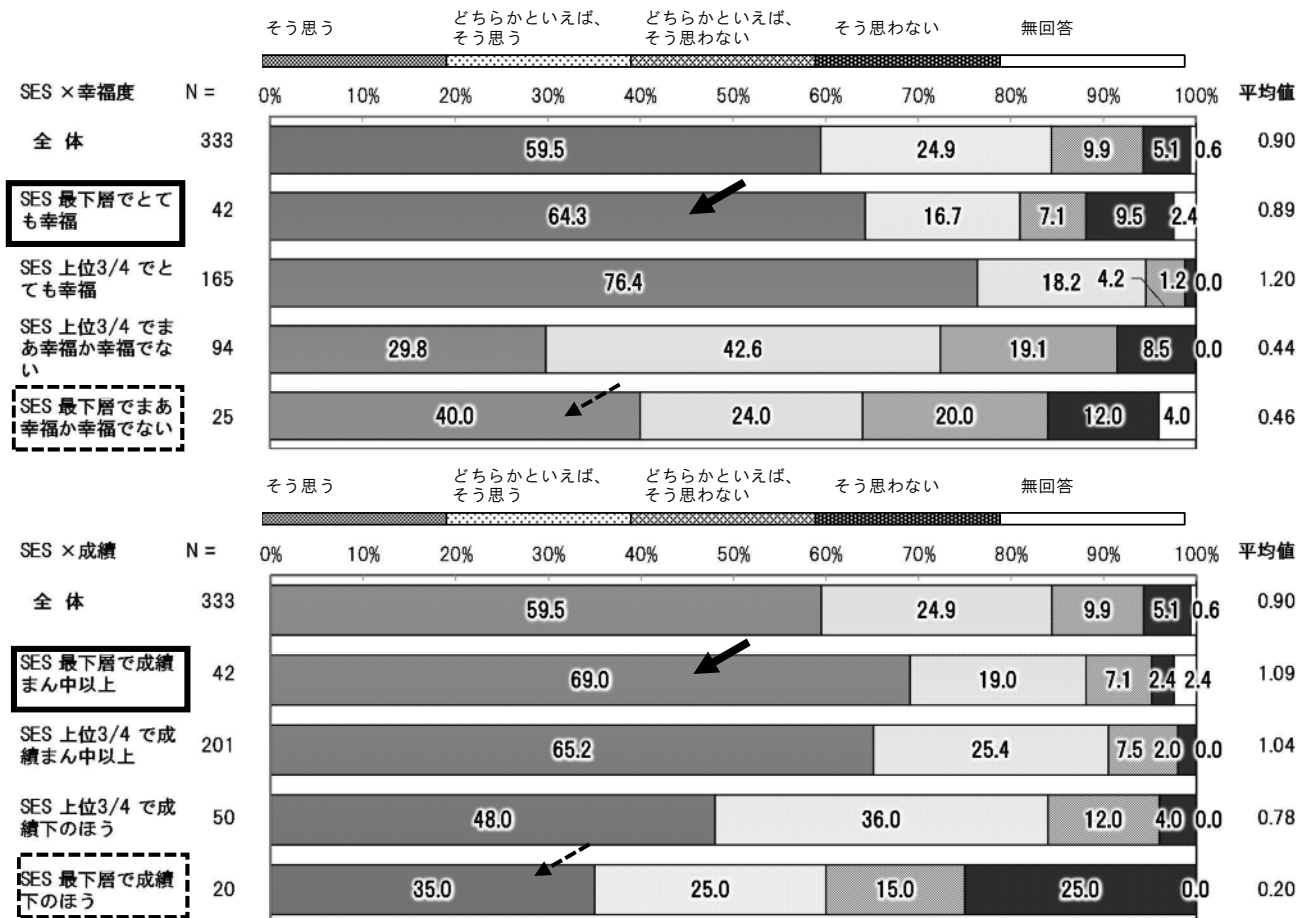
- ・『SES 最下層でとても幸福』な子どもは、「そう思う」が 50.0%で『SES 最下層でまあ幸福か幸福でない』子どもの 36.0%より多く、『SES 上位 3/4 でとても幸福』な子どもの 60.0%の次に多い結果でした。
- ・『SES 最下層で成績まん中以上』の子どもは、「そう思う」が 54.8%で『SES 最下層で成績下のほう』の子どもの 25.0%より多く、『SES 上位 3/4 で成績まん中以上』の子どもの 50.7%より上回りました。
- ・家庭の経済社会環境が厳しいなかで、先生が自分の意見や気持ちを聞いてくれることと、幸福と感ずることや学校の成績には、関連がある可能性があります。



小中 12)

■ 1-3-3) 学校生活について、次のことがどれくらいあてはまりますか。：オ 自分のペースで過ごすことができる SA

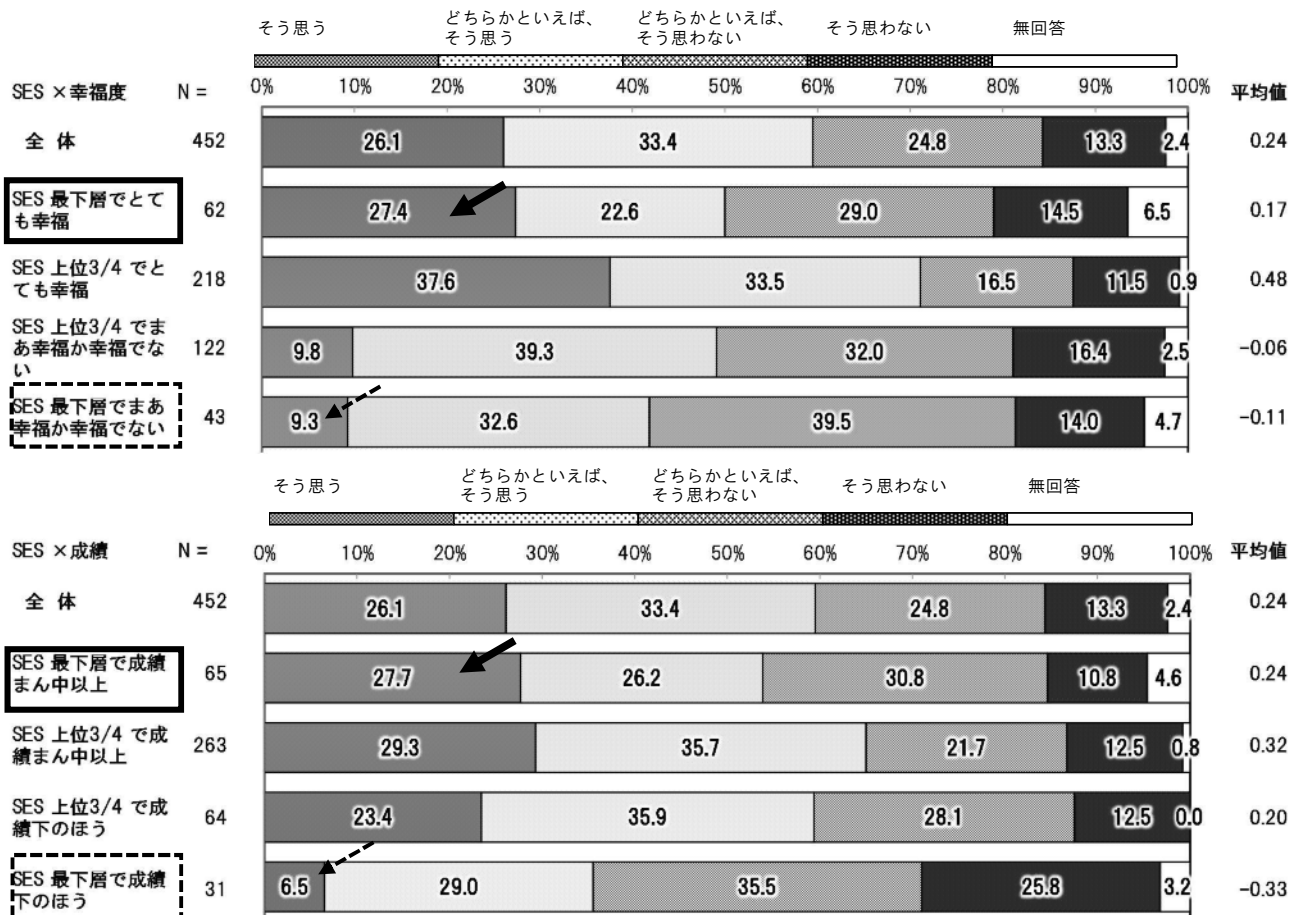
- ・『SES 最下層でとても幸福』な子どもは、「そう思う」が 64.3%で『SES 最下層でまあ幸福か幸福でない』子どもの 40.0%より多く、『SES 上位 3/4 でとても幸福』な子どもの 76.4%の次に多い結果でした。
- ・『SES 最下層で成績まん中以上』の子どもは、「そう思う」が 69.0%で『SES 最下層で成績下のほう』の子ども 35.0%より多く、『SES 上位 3/4 で成績まん中以上』の子ども 65.2%より上回りました。
- ・家庭の経済社会環境が厳しいなかで、自分のペースで過ごすことができることと、幸福と感じることや学校の成績には、関連がある可能性があります。



小中 12)

■ 1-3-4) あなたは、20 年後、どのようになっていると思いますか。：エ 子どもを育てている SA

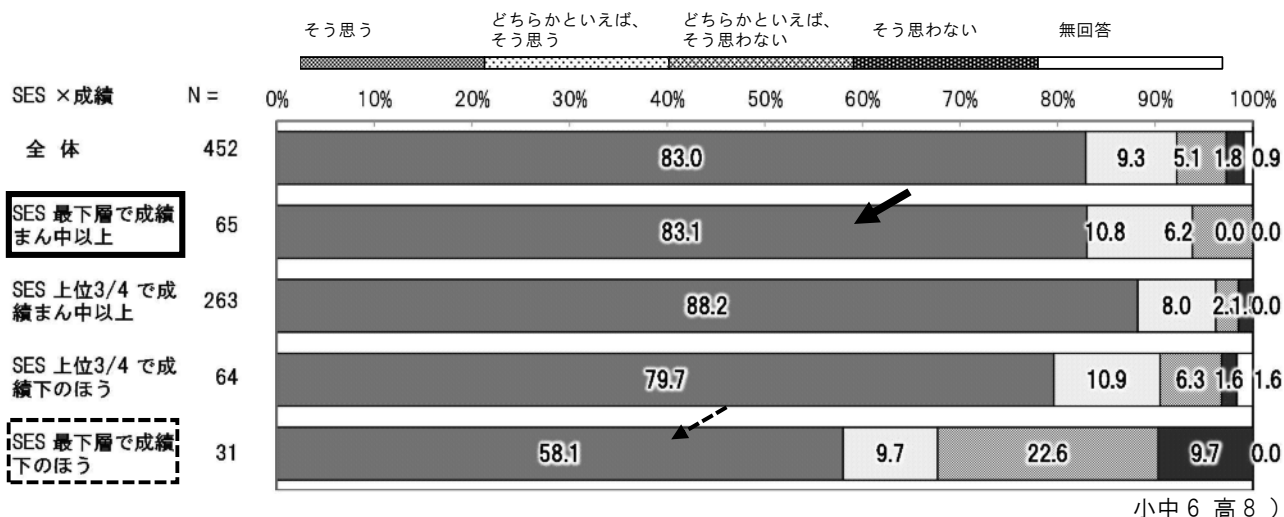
- ・『SES 最下層でとても幸福』な子どもは、「そう思う」が 27.4%で『SES 最下層でまあ幸福か幸福でない』子どもの 9.3%より多く、『SES 上位 3/4 でとても幸福』な子どもの 37.6%の次に多い結果でした。
- ・『SES 最下層で成績まん中以上』の子どもは、「そう思う」が 69.0%で『SES 最下層で成績下のほう』の子ども 35.0%より多く、『SES 上位 3/4 で成績まん中以上』の子ども 65.2%より上回りました。
- ・家庭の経済社会環境が厳しいなかで、20 年後には子どもを育てていると思うことと、幸福と感ずることや学校の成績には、関連がある可能性があります。



小中 13 高 14)

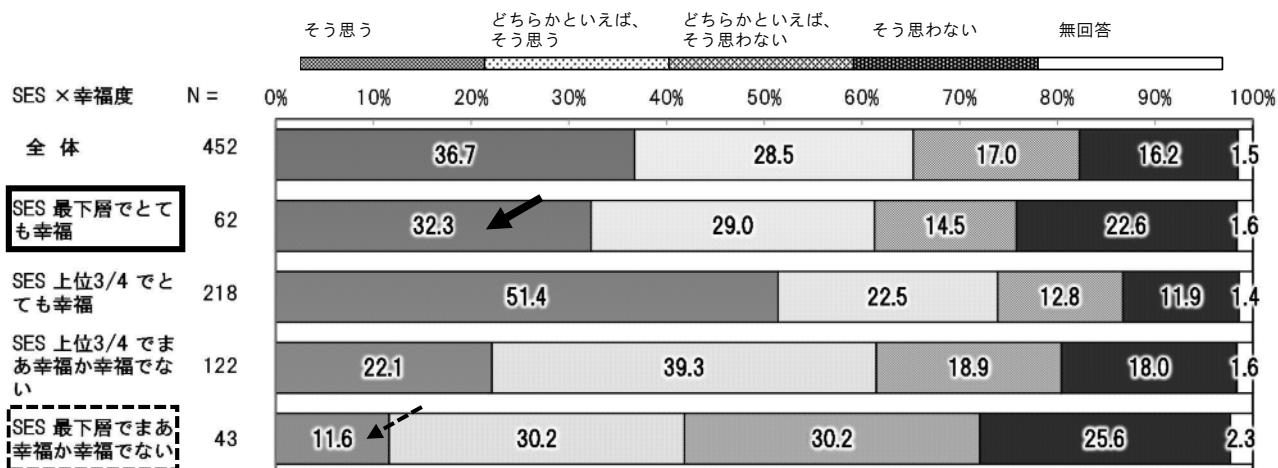
■ 1-3-5) あなたは、他の人とどれくらい話したり、やりとりしたりしますか。：ア 親 SA

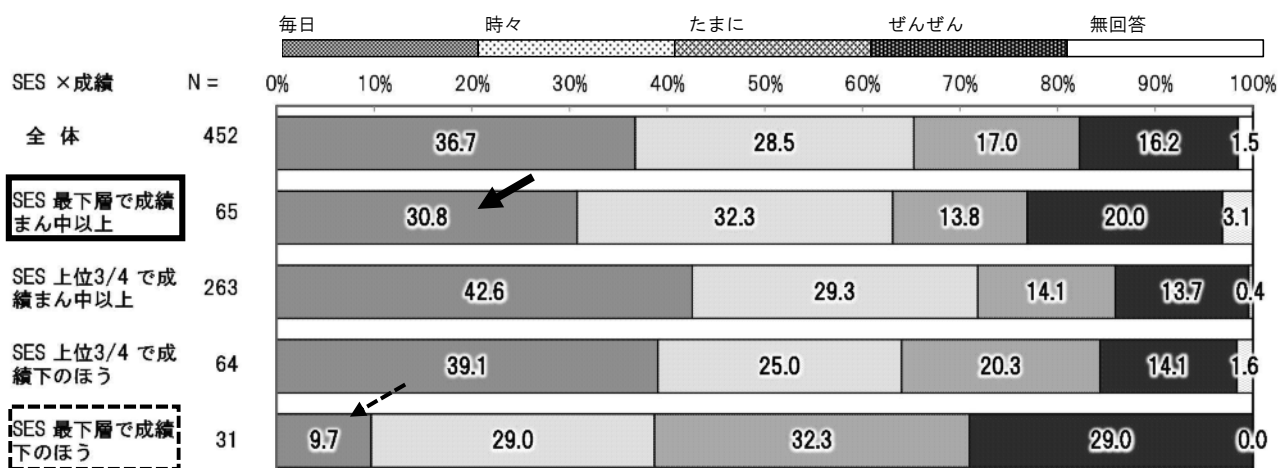
- ・『SES 最下層で成績まん中以上』の子どもは、「毎日」が 83.1%で『SES 最下層で成績下のほう』の子ども 58.1%より多く、『SES 上位 3/4 で成績まん中以上』の子ども 88.2%の次に多い結果でした。
- ・家庭の経済社会環境が厳しいなかで、親と毎日やりとりする関係と学校の成績には、関連がある可能性があります。



■ 1-3-6) あなたは、他の人とどれくらい話したり、やりとりしたりしますか。：エ 担任の先生 SA

- ・『SES 最下層でとても幸福』な子どもは、「毎日」が 32.3%で『SES 最下層でまあ幸福か幸福でない』子どもの 11.6%より多く、『SES 上位 3/4 でとても幸福』な子どもの 51.4%の次に多い結果でした。
- ・『SES 最下層で成績まん中以上』の子どもは、「毎日」が 30.8%で『SES 最下層で成績下のほう』の子ども 9.7%より多い結果でした。
- ・家庭の経済社会環境が厳しいなかで、担任の先生と毎日やりとりする関係と、幸福と感ずることや学校の成績には、関連がある可能性があります。

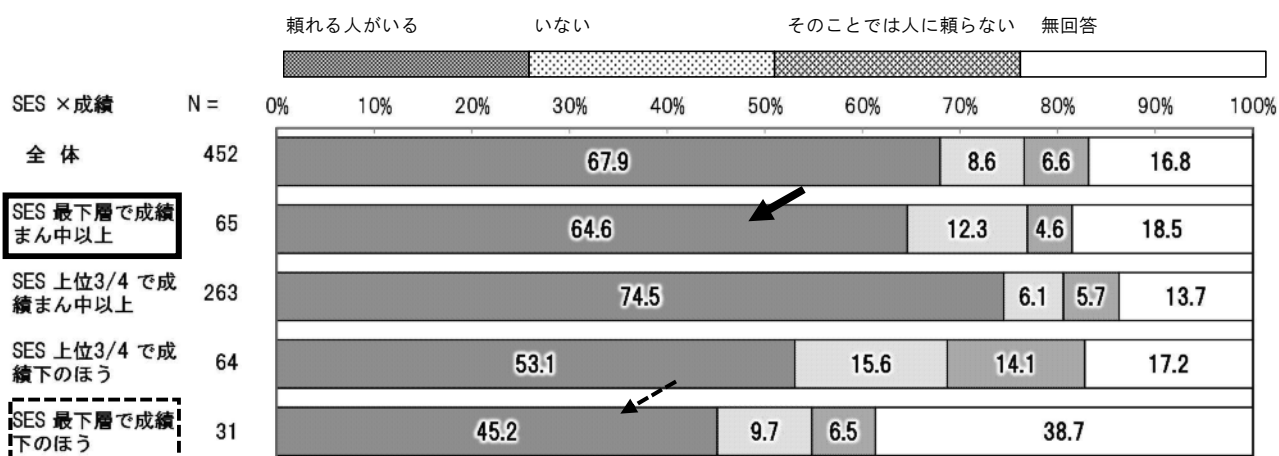




小中6 高8)

■ 1-3-7) あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。：ア 子育てに関する相談 SA

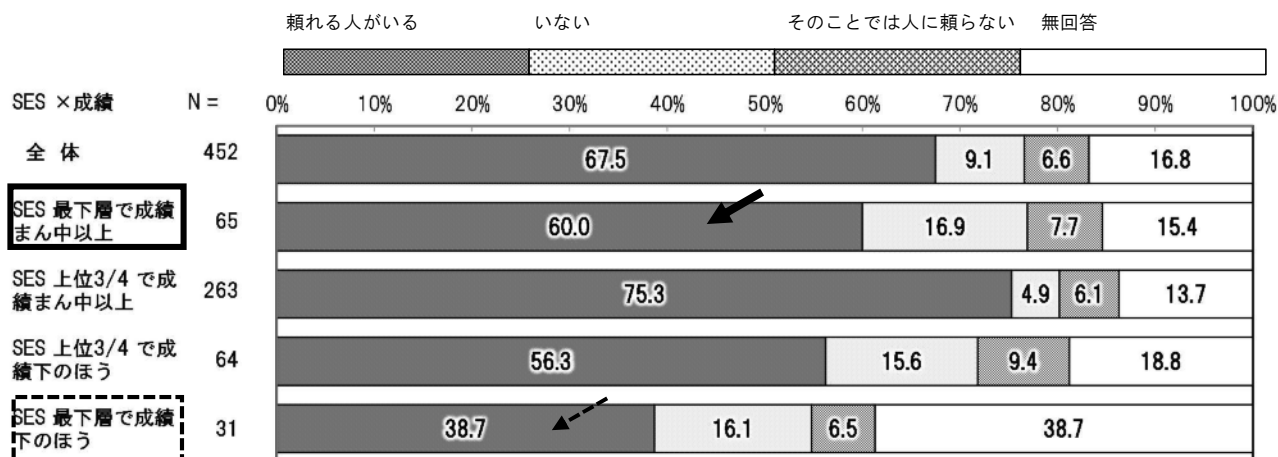
- ・『SES 最下層で成績まん中以上』の保護者は、「頼れる人がいる」が64.6%で『SES 最下層で成績下のほう』の保護者の45.2%より多く、『SES 上位3/4で成績まん中以上』の子どもの74.5%の次に多い結果でした。
- ・家庭の経済社会環境が厳しいなかで、保護者に子育ての相談ができる人がいることと子どもの学校の成績には、関連がある可能性があります。



小保13 中高保10)

■ 1-3-8) あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。：イ 重要な事柄の相談 SA

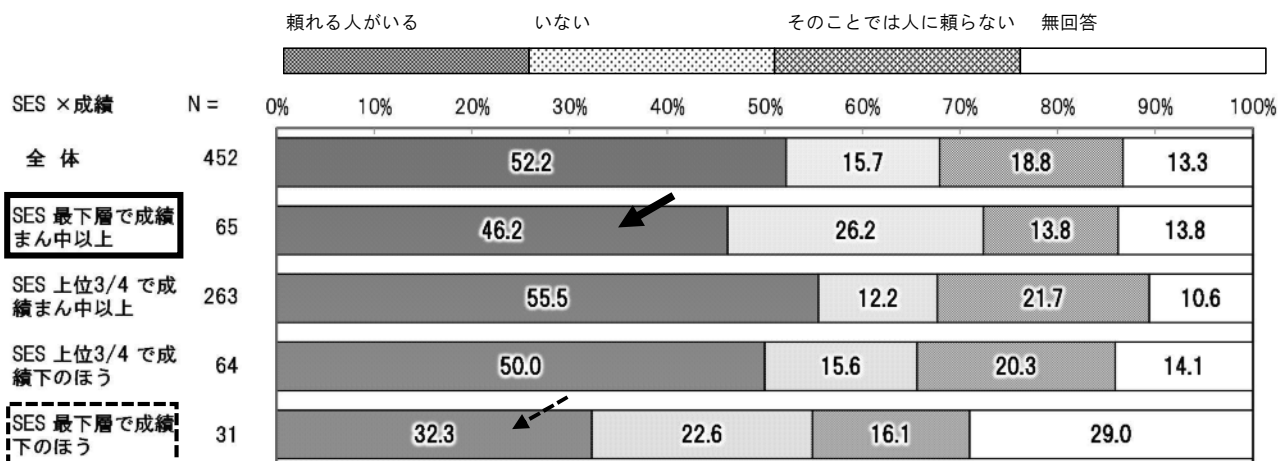
- ・『SES 最下層で成績まん中以上』の保護者は、「頼れる人がいる」が 60.0%で『SES 最下層で成績下のほう』の保護者の 38.7%より多く、『SES 上位 3/4 で成績まん中以上』の子どもの 75.3%の次に多い結果でした。
- ・家庭の経済社会環境が厳しいなかで、重要な事柄の相談ができる人がいることと子どもの学校の成績には、関連がある可能性があります。



小保 13 中高保 10)

■ 1-3-9) あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。：ウ いざという時のお金の援助 SA

- ・『SES 最下層で成績まん中以上』の保護者は、「頼れる人がいる」が 46.2%で『SES 最下層で成績下のほう』の保護者の 32.3%より多い結果でした。
- ・家庭の経済社会環境が厳しいなかで、いざという時のお金の援助で頼れる人がいることと子どもの学校の成績には、関連がある可能性があります。



小保 13 中高保 10)

2 子どもの意見は大切にされているか

今回のアンケートでは、子どもの意見が大切にされているかについて、「家庭」「学校」「地域社会」の3つのステージで、子どもからの視点と、保護者や大人からの視点で聞いています。それぞれのステージごとのアンケート結果について示します。

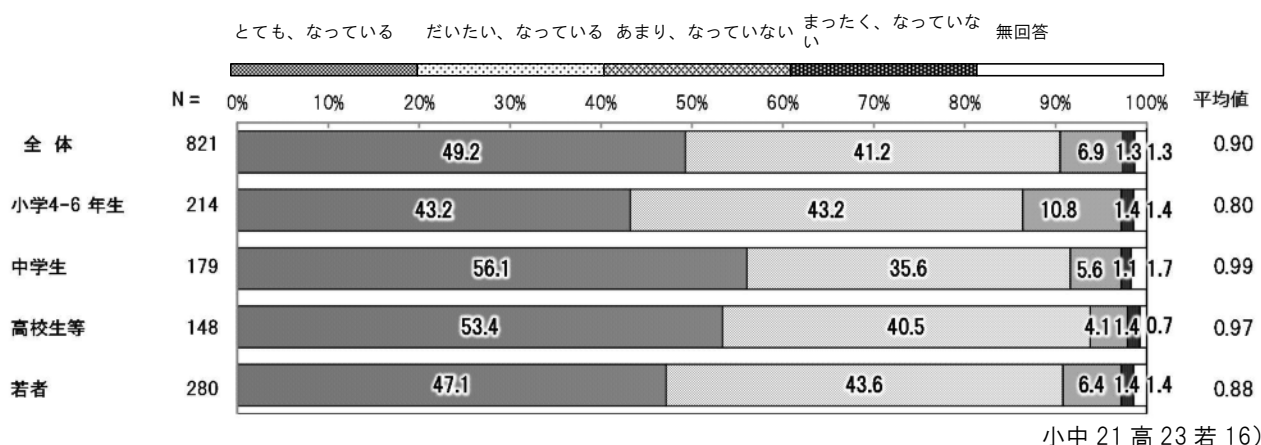
2-1 家庭での子どもの意見について

2-1-1) と2-1-2) は子どもの視点で見た、家庭での意見の扱われ方です。家で何かを決める時に、小学4-6年生では86.4%が、高校生等で93.9%が意見を聞かれていると答えています。さらに意見の95%は大切にされています。

一方で、2-1-3) ~ 2-1-5) は、保護者から見た意見の取り扱われ方です。子どもからの視点と異なり、小学生の保護者は97.7%が意見を聞いていると答えており、特に小学生において、子どもと親の認識に、少し違いがあるようです。意見を大切にしているかどうかについては、子どもと保護者の認識に大きな違いはありませんでした。

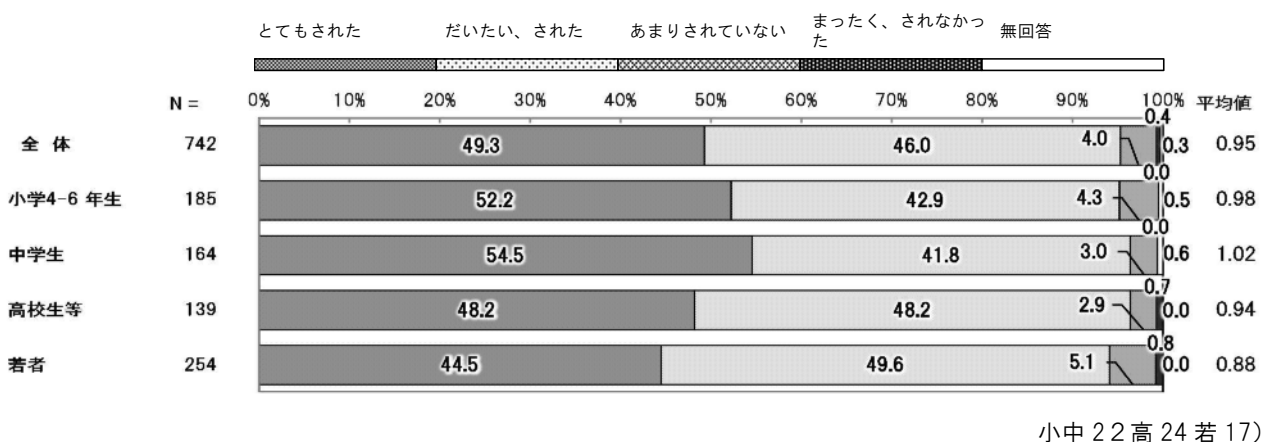
■ 2-1-1) 家で何かを決めるとき、あなたは意見を言えるようになっていきますか。 SA

- すべての対象で、「とても、なっている」「だいたい、なっている」の合計が「あまり、なっていない」「まったく、なっていない」の合計より多く、最も低い小学4-6年生で86.4%、最も高い高校生等で93.9%でした。



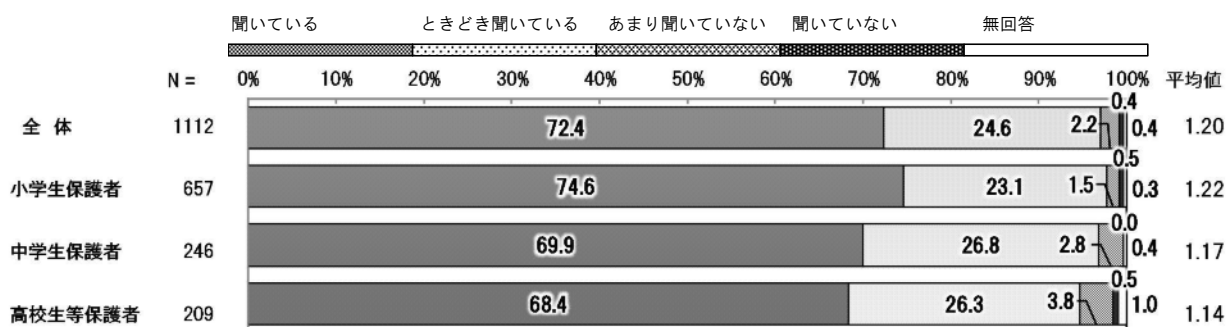
■ 2-1-2) 家であなたの意見や思いは大切にされましたか。 SA

- すべての対象で、「とてもされた」「だいたい、された」の合計が「あまりされていない」「まったく、されなかった」の合計より多く、最も低い若者で94.1%、最も高い高校生等で96.4%でした。



■ 2-1-3) あなたは、ふだん家で子どもの話をよく聞いていますか。 SA

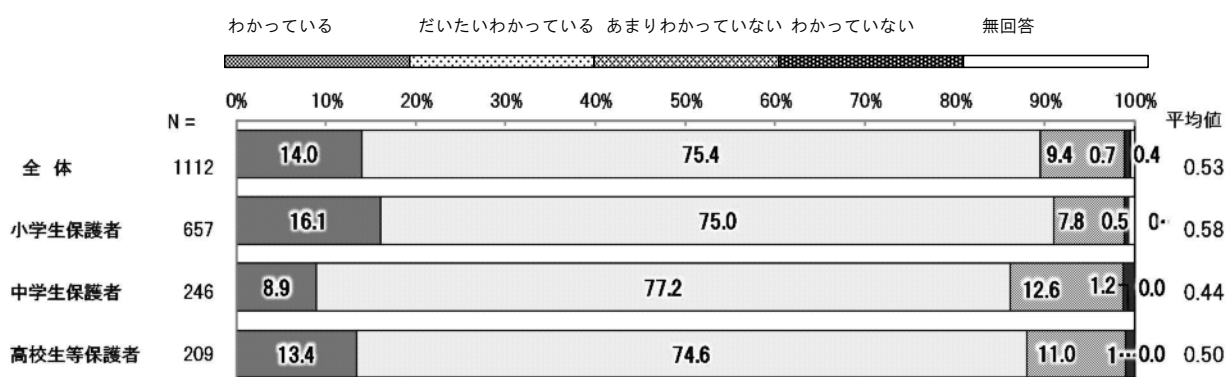
- すべての対象で、「聞いている」「ときどき聞いている」の合計が「あまり聞いていない」「聞いていない」、最も低い高校生等保護者で 94.7%、最も高い小学生保護者等で 97.7%でした。



小保 17 中高保 14)

■ 2-1-4) あなたは、子どものことをわかっていると思いますか。 SA

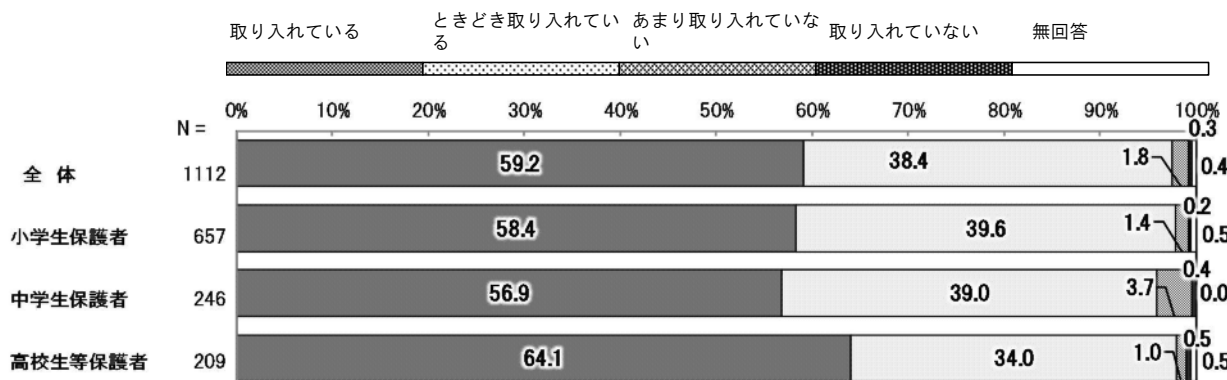
- すべての対象で、「わかっている」「だいたいわかっている」の合計が「あまりわかっている」「わかっている」の合計より多く、最も低い中学生保護者で 86.1%、最も高い小学生保護者で 96.4%でした。



小保 19 中高保 16)

■ 2-1-5) あなたは、家で何かを決めるとき、子どもの思いや考えを取り入れていますか。 SA

- すべての対象で、「取り入れている」「ときどき取り入れている」の合計が「あまり取り入れている」「取り入れている」の合計より多く、最も低い中学生保護者で 95.9%、最も高い高校生等保護者で 98.1%でした。



小保 20 中高保 17)

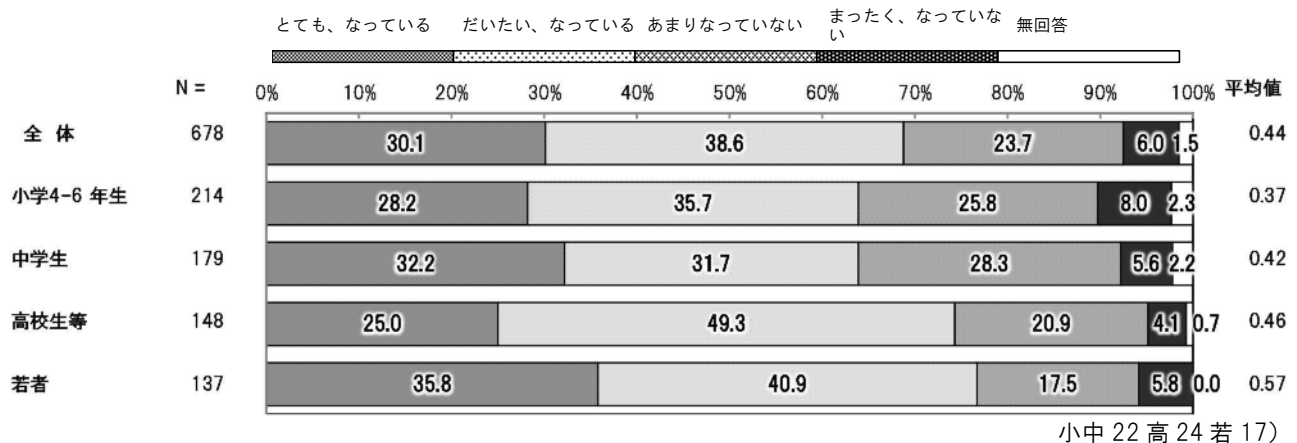
2-2 学校での子どもの意見について

2-2-1)と2-2-2)は子どもの視点で見た、学校での意見の扱われ方です。学校で何かを決める時に、意見を言えるようになっていないと答えた割合は、全体で68.7%でした。

一方で、2-2-3)～2-2-8)は、地域団体や区施設職員から見た子どもの意見の取り扱われ方です。区施設職員のうち75.9%が、保育所や小学校・中学校の先生です。区職員の結果が、およそ、学校の先生の視点が反映されていると考えられます。子どもからの視点と異なり、区施設職員の94.3%が子どもの意見や気持ちを聞く(受け止めること)が出来ていると答えており、子どもとの認識の違いが大きく出ています。ただし、子どもの視点では、出した意見の94.2%が大切にされていると答えているのに対し、区施設職員では子どもの意見を実現したり反映できたりしたのが79.9%とやや低くなっており、子どものほうが高い結果となっています。子どもは意見の反映については満足感を持っており、意見の聞き方について工夫の余地があると言えます。

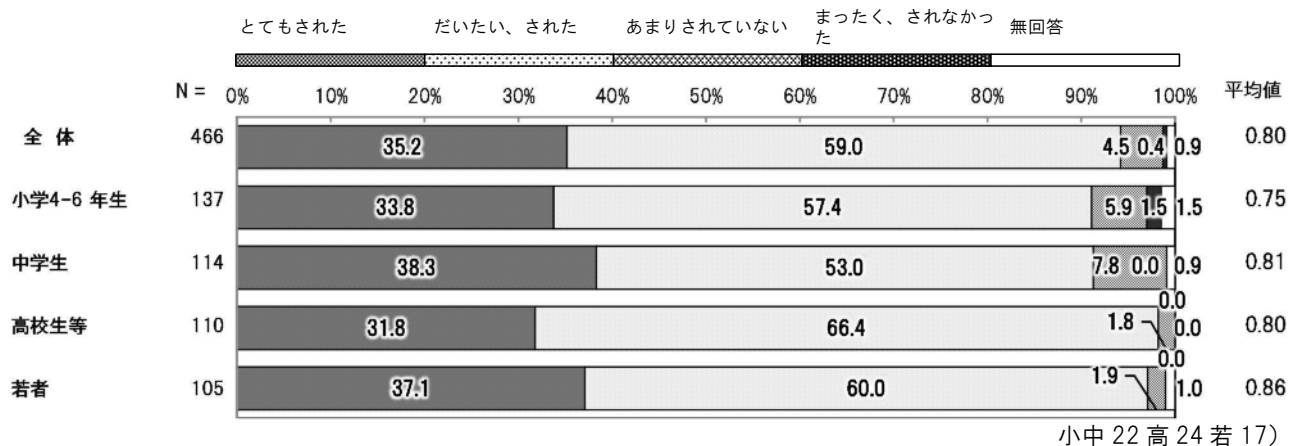
■ 2-2-1) 学校で何かを決めるとき、あなたは意見を言えるようになっていますか。 SA

- すべての対象で、「とても、なっている」「だいたい、なっている」の合計が「あまりなっていない」「まったく、なっていない」の合計より多く、全体で68.7%でした。



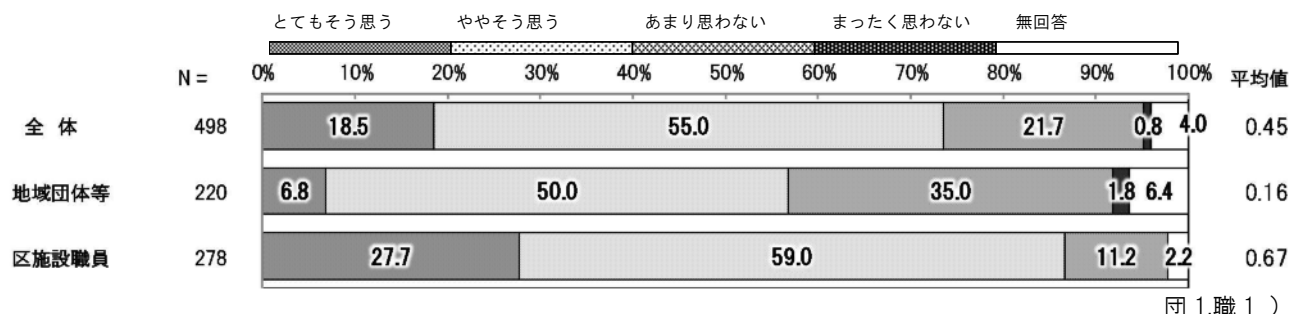
■ 2-2-2) 学校でああなたの意見や思いは大切にされましたか。 SA

- すべての対象で、「とてもされた」「だいたい、された」の合計が「あまりされていない」「まったく、されなかった」の合計より多く、最も低い小学4-6 年生で91.2%、最も高い高校生等で98.2%でした。



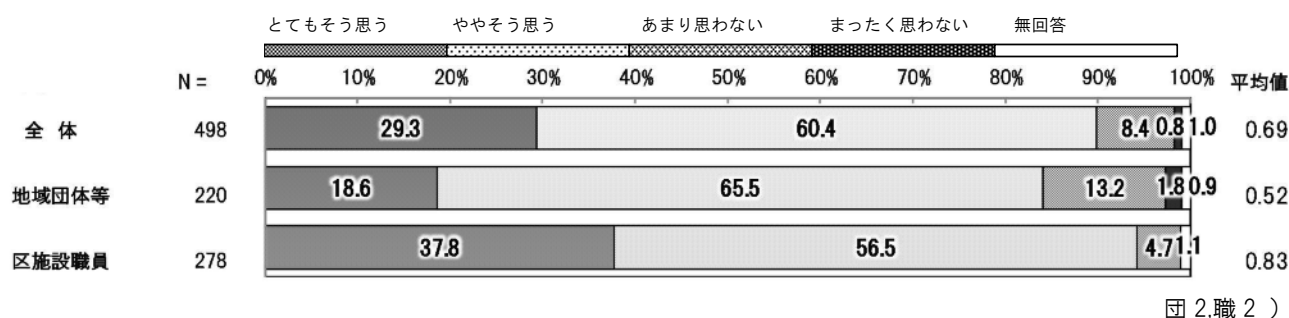
■ 2-2-3) あなたの地域や団体、職場で接する子どもについて イ 安心して自分の気持ちや悩みを話せるおとながいる SA

- ・ 地域団体等と区施設職員はどちらも「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計が「あまり思わない」「まったく思わない」の合計より多く、地域団体等で 56.8%、区施設職員で 86.7%でした。



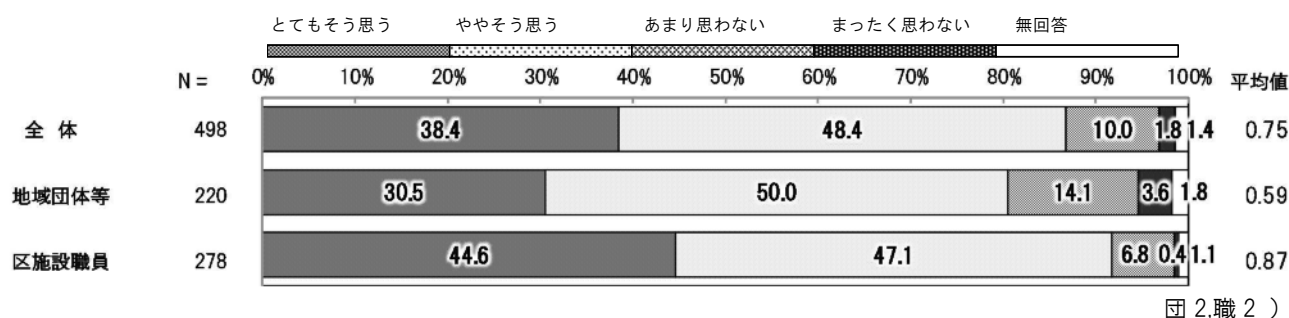
■ 2-2-4) あなたの子どもへの対応方法について ア 子どもの気持ちや意見を聞くこと（受け止めること）ができています SA

- ・ 地域団体等と区施設職員はどちらも「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計が「あまり思わない」「まったく思わない」の合計より多く、地域団体等で 84.1%、区施設職員で 94.3%でした。



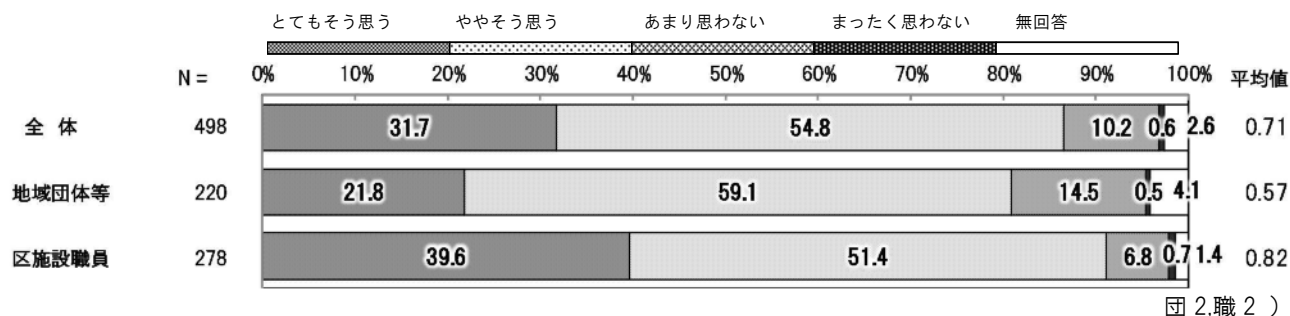
■ 2-2-5) あなたの子どもへの対応方法について イ 地域や、団体で子どもに関わること（運営方針、行事等）を決めるとき、子どもの思いや考えを取り入れている SA

- ・ 地域団体等と区施設職員はどちらも「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計が「あまり思わない」「まったく思わない」の合計より多く、地域団体等で 80.5%、区施設職員で 91.7%でした。



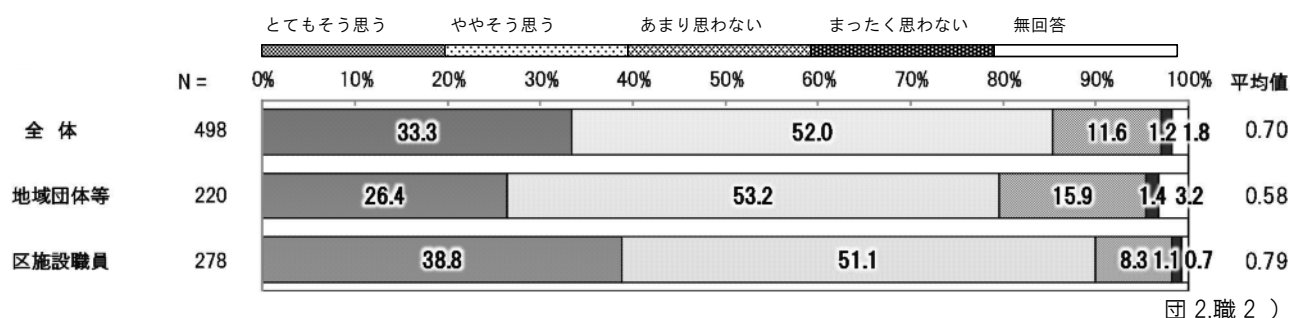
■ 2-2-6) あなたの子どもへの対応方法について ウ 地域や団体で接する子どもたちには可能な限り自由な時間や自主性を持たせている SA

- ・ 地域団体等と区施設職員はどちらも「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計が「あまり思わない」「まったく思わない」の合計より多く、地域団体等で 80.9%、区施設職員で 91.0%でした。



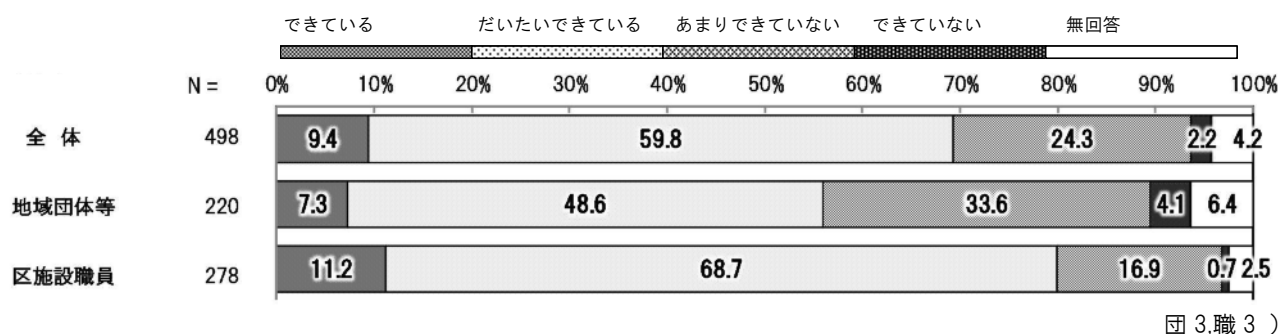
■ 2-2-7) あなたの子どもへの対応方法について エ 団地で子どもに関わること（運営方針、行事等）を決めるとき、自分の思いや考えを自由に言えるようにしている SA

- ・ 地域団体等と区施設職員はどちらも「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計が「あまり思わない」「まったく思わない」の合計より多く、地域団体等で 79.6%、区施設職員で 89.9%でした。



■ 2-2-8) あなたは、子どもから聞いた意見を、実際に反映させたり、実現させたりすることができますか。 SA

- ・ 地域団体等と区施設職員はどちらも「できている」「だいたいできている」の合計が「あまりできていない」「できていない」の合計より多く、地域団体等で 55.9%、区施設職員で 79.9%でした。



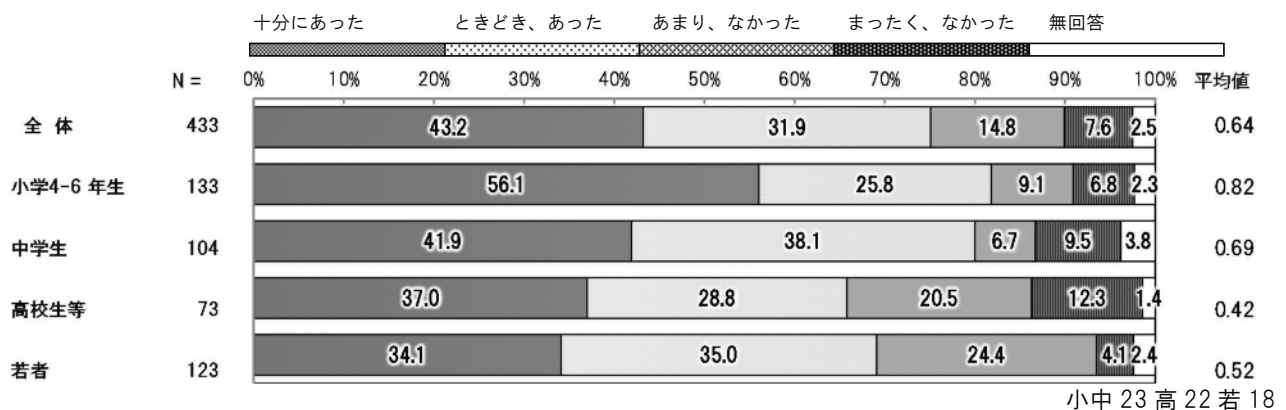
2-3 地域での子どもの意見について

2-3-1)～2-3-3)は、地域で子どもが活動する場合の、子どもの意見の取り扱われ方を示したものです。2-3-2)で見る通り、地域で意見が聞かれていると答えた子どもは、全体で36.7%でした。特に高校生等の割合が低く24.7%でした。一方で、前章、2-2-3)～2-2-8)における地域団体等が、地域の大人の意見を反映していると考えられますが、2-2-4)で、子どもの気持ちや意見を聞くこと（受け止めること）ができていると答えている割合が84.1%と答えており、大きな違いがあります。2-2-8)では、子どもからの意見を反映させることができている割合が55.9%となっており、子どもの意見を単に聞くだけでなく、意見を反映させる必要があると考えられます。

■2-3-1) 地域で何かをしたり、決めたりするとき、大人から事前の説明がありましたか。

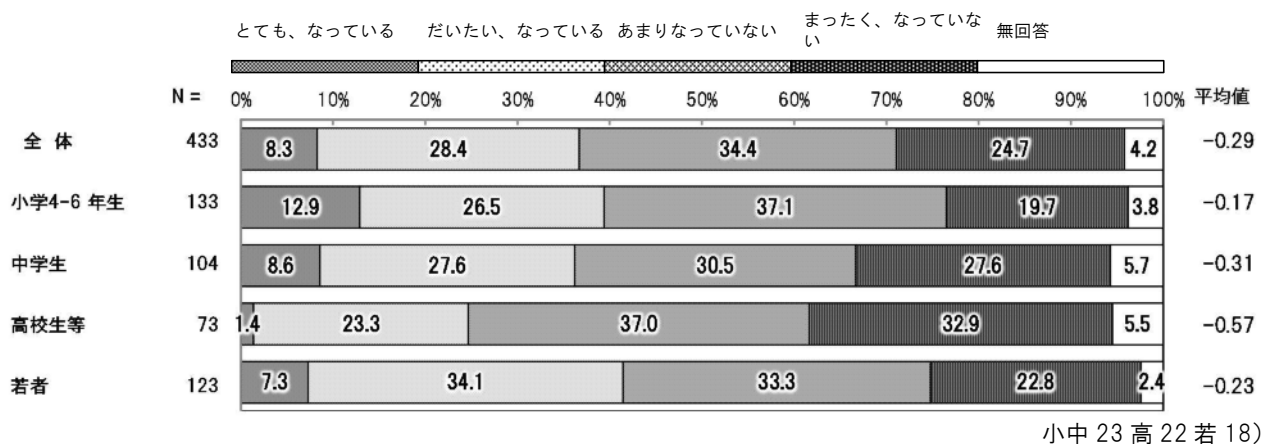
SA

- すべての対象で、「十分にあった」「ときどき、あった」の合計が「あまり、なかった」「まったく、なかった」の合計より多く、最も低い高校生等で65.8%、最も高い小学4-6年生で81.9%でした。



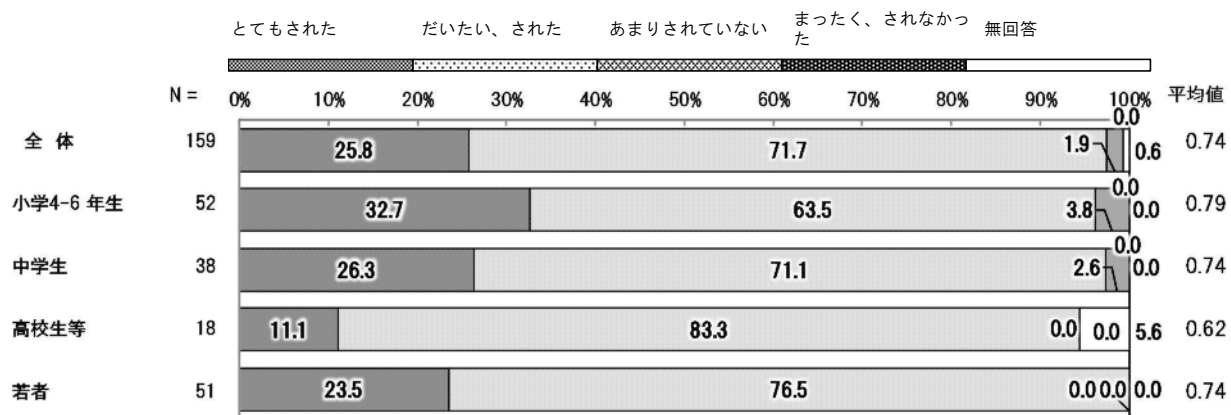
■2-3-2) 地域で何かをしたり、決めたりするとき、あなたは意見を言えるようになっていきますか。 SA

- すべての対象で、「あまりなっていない」「まったく、なっていない」の合計が「とても、なっている」「だいたい、なっている」の合計より多く、最も低い若者で56.1%、最も高い高校生等で69.9%でした。



■ 2-3-3) 地域であなたの意見や思いは大切にされましたか。 SA

- ・ すべての対象で、「とてもされた」「だいたい、された」の合計が「あまりされていない」「まったく、されなかった」の合計より多く、最も低い高校生等で 94.4%、最も高い若者で 100.0%でした。



小中 23 高 22 若 18)

3 支援機関や団体の連携・協力状況

地域団体等、区施設職員いずれも「小学校・中学校」と日常的によく連携しており、「町会・自治会」、「民生委員・児童委員」、「子どもスキップ」とも連携をしていました。

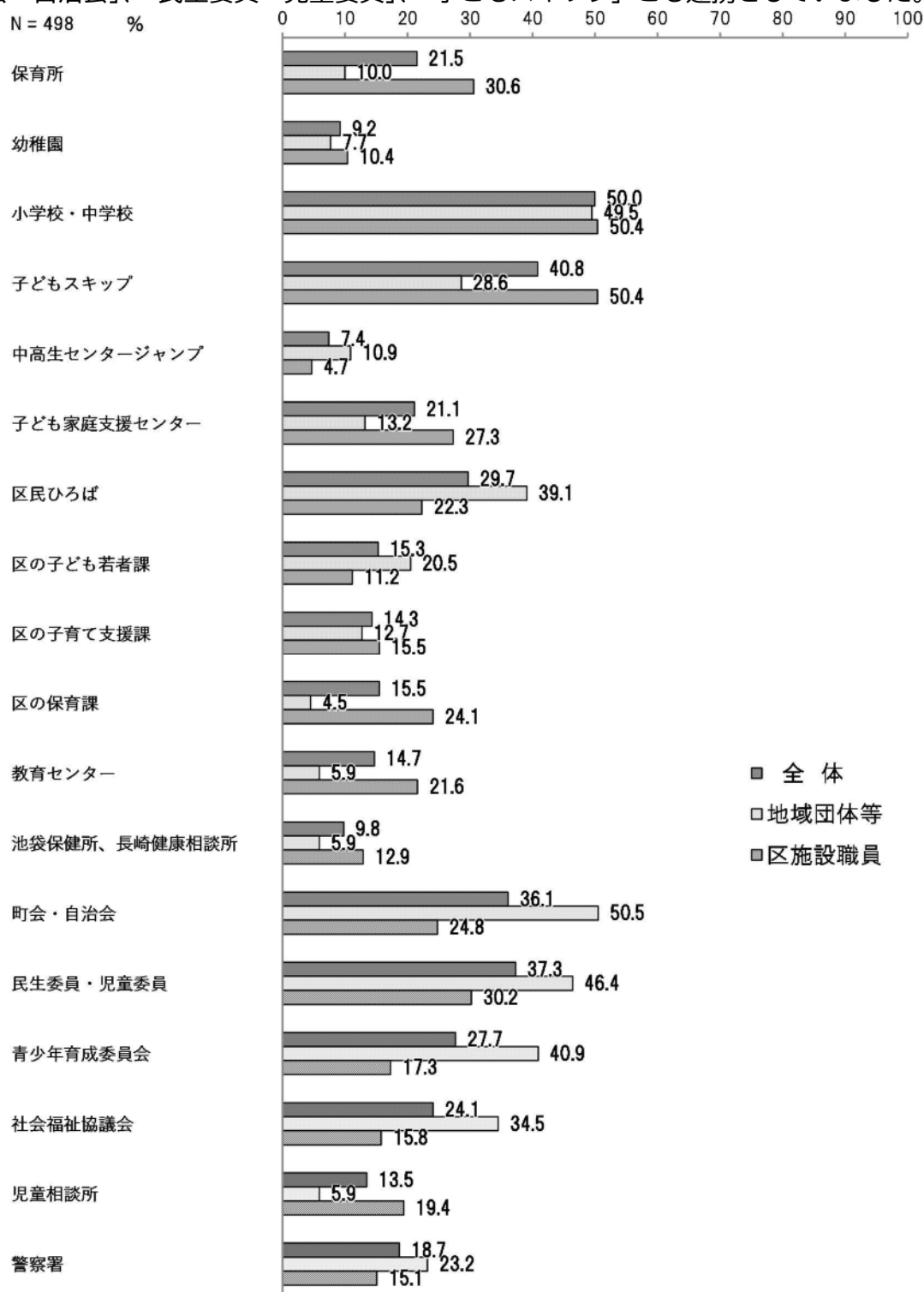
イベントの企画運営では、地域団体等、区施設職員いずれも「区民ひろば」、「町会・自治会」、「小学校・中学校」、「民生委員・児童委員」、「子どもスキップ」と連携していました。

地域団体等、区施設職員いずれも「区の子ども若者課」と「社会福祉協議会」に困ったときに相談する一方で、地域団体等は区施設職員ほど「子ども家庭支援センター」、「教育センター」、「児童相談所」、「警察署」への相談は少ない結果でした。

地域団体等は、一部の地域団体等がカンファレンスに参加している「児童相談所」や、「子ども家庭支援センター」、「教育センター」に困ったときに相談できるようになると、より効果的な連携が進む可能性があります。

■ 3-1-1) あなたの団体や職場で、日常的に連携する機関や地域団体 (複数回答)

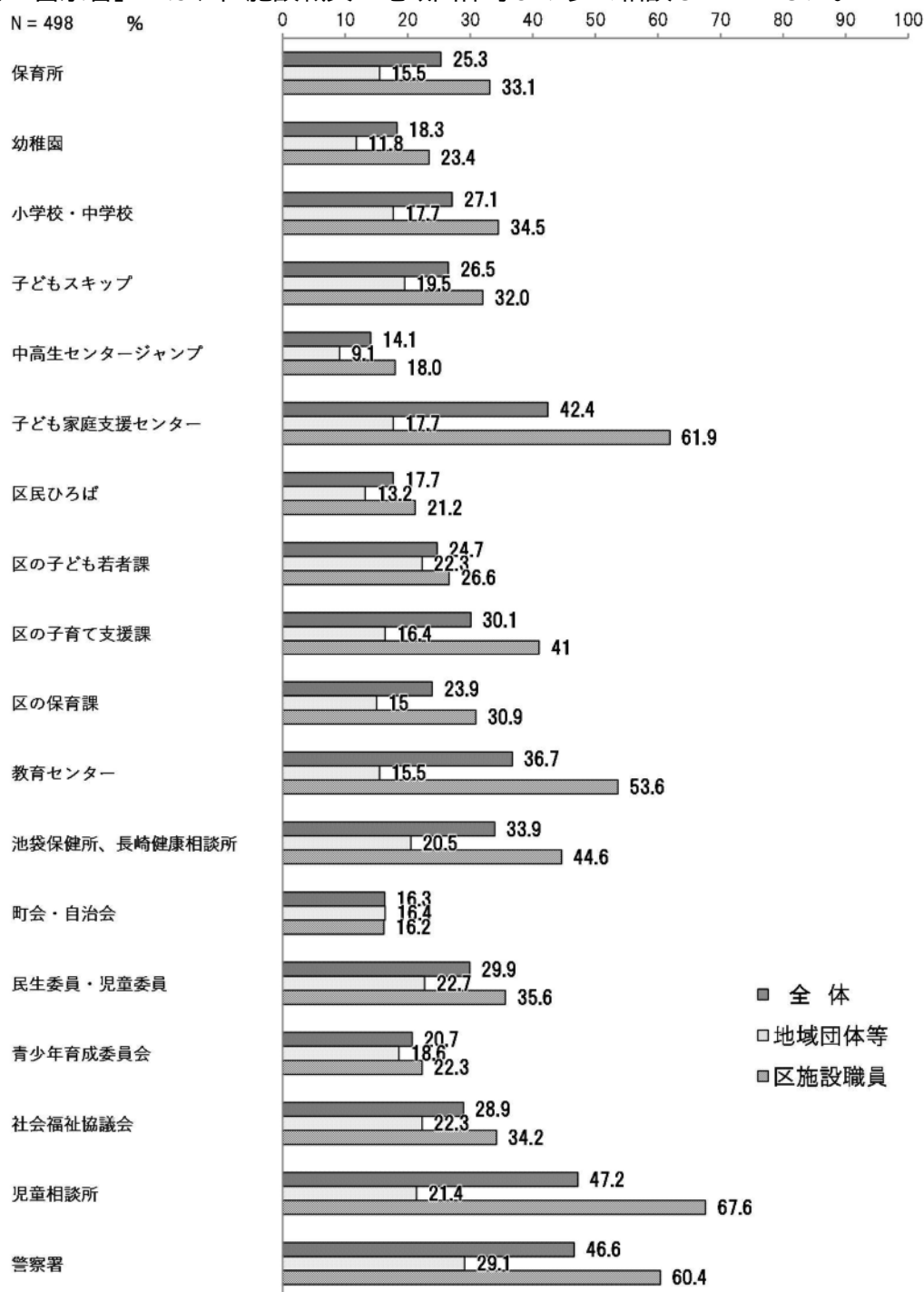
- ・ 地域団体等は、「町会・自治会」が最も多く 50.5%、次いで「小学校・中学校」が 49.5%、「民生委員・児童委員」が 46.4%でした。
- ・ 区施設職員は、「小学校・中学校」と「子どもスキップ」が最も多く 50.4%でした。
- ・ 地域団体等、区施設職員いずれも「小学校・中学校」と日常によく連携しており、「町会・自治会」、「民生委員・児童委員」、「子どもスキップ」とも連携をしていました。



団 8,職 10)

■ 3-1-2) あなたの団体や職場で、困った時に相談する機関や地域団体 (複数回答)

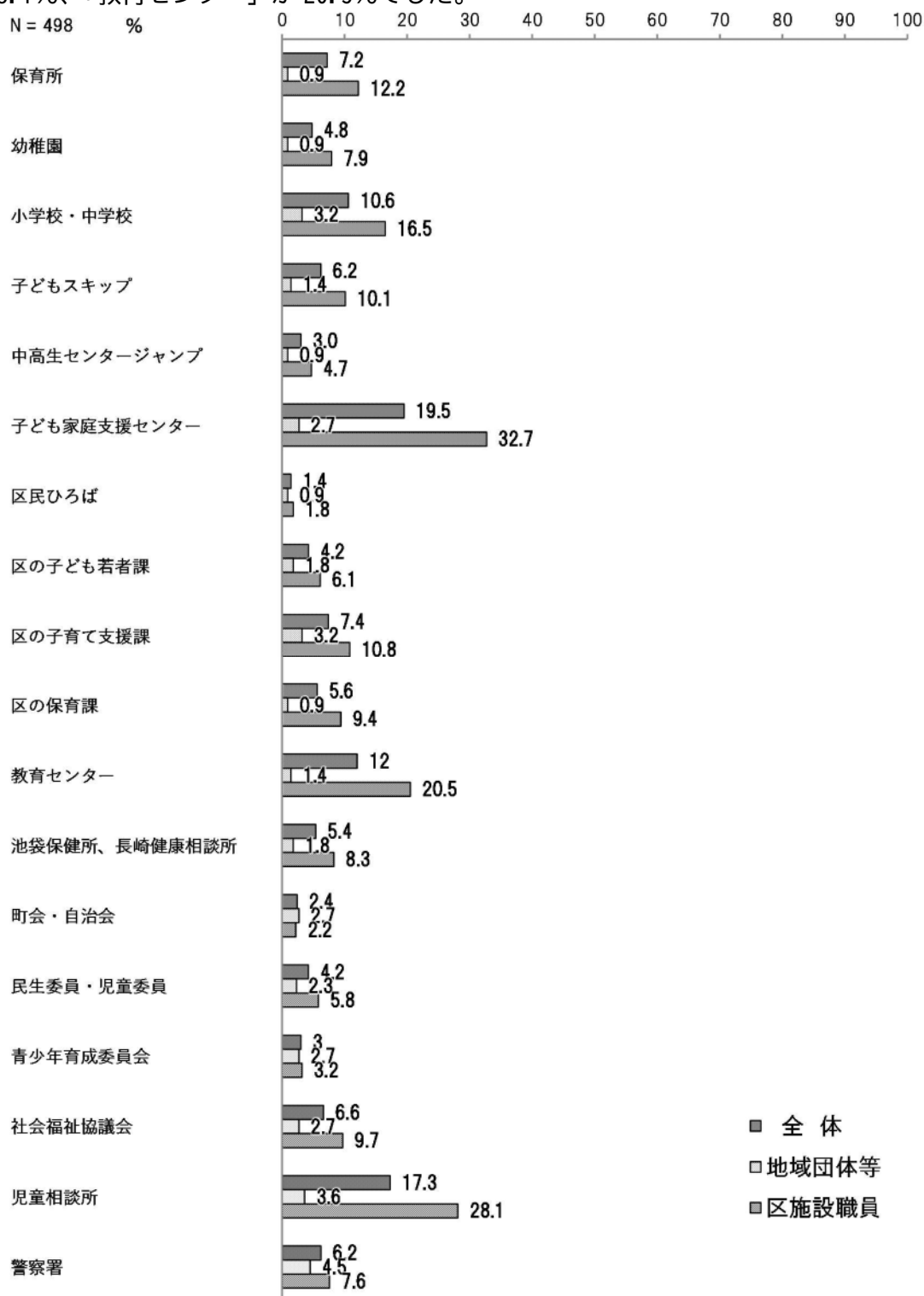
- ・ 地域団体等は、「警察署」が最も多く 29.1%、次いで「区の子ども若者課」、「社会福祉協議会」が 22.3%でした。
- ・ 区施設職員は、「児童相談所」が最も多く 67.6%、次いで「子ども家庭支援センター」が 61.9%、「警察署」が 60.4%、「教育センター」が 53.6%でした。
- ・ 地域団体等、区施設職員いずれも「区の子ども若者課」と「社会福祉協議会」とは同程度に困ったときに相談する一方で、「子ども家庭支援センター」、「教育センター」、「児童相談所」、「警察署」とは、区施設職員が地域団体等より多く相談していました。



団 8,職 10)

■ 3-1-3) あなたの団体や職場で、困難事例のカンファレンスをする機関や地域団体 (複数回答)

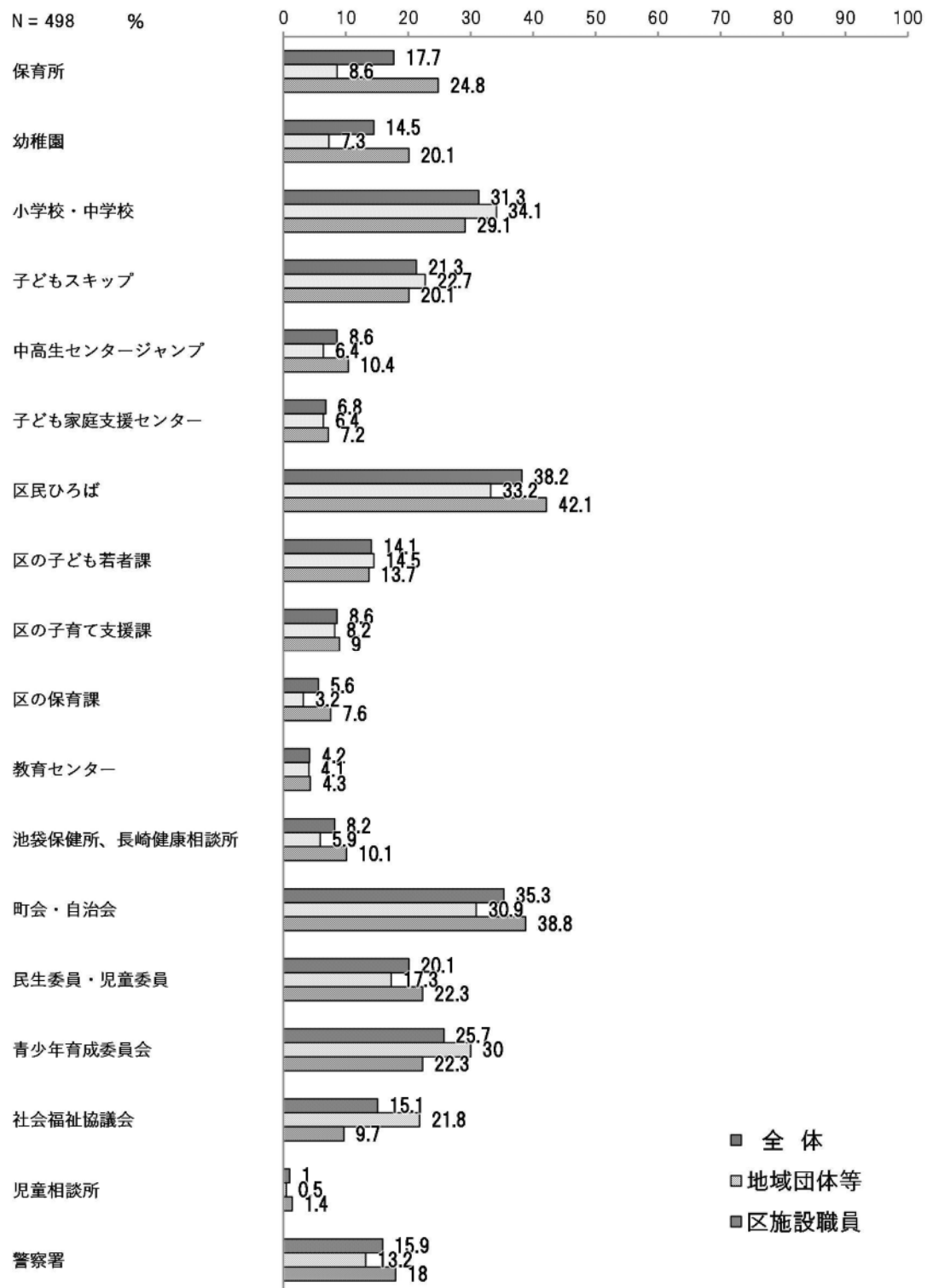
- ・ 地域団体等は、実施機会が少なく、「警察署」が最も多く 4.5%、次いで「児童相談所」が 3.6%でした。
- ・ 区施設職員は、「子ども家庭支援センター」が最も多く 32.7%、次いで「児童相談所」が 28.1%、「教育センター」が 20.5%でした。



団 8,職 10)

■ 3-1-4) あなたの団体や職場で、プログラムやイベントの企画運営をする機関や地域団体
(複数回答)

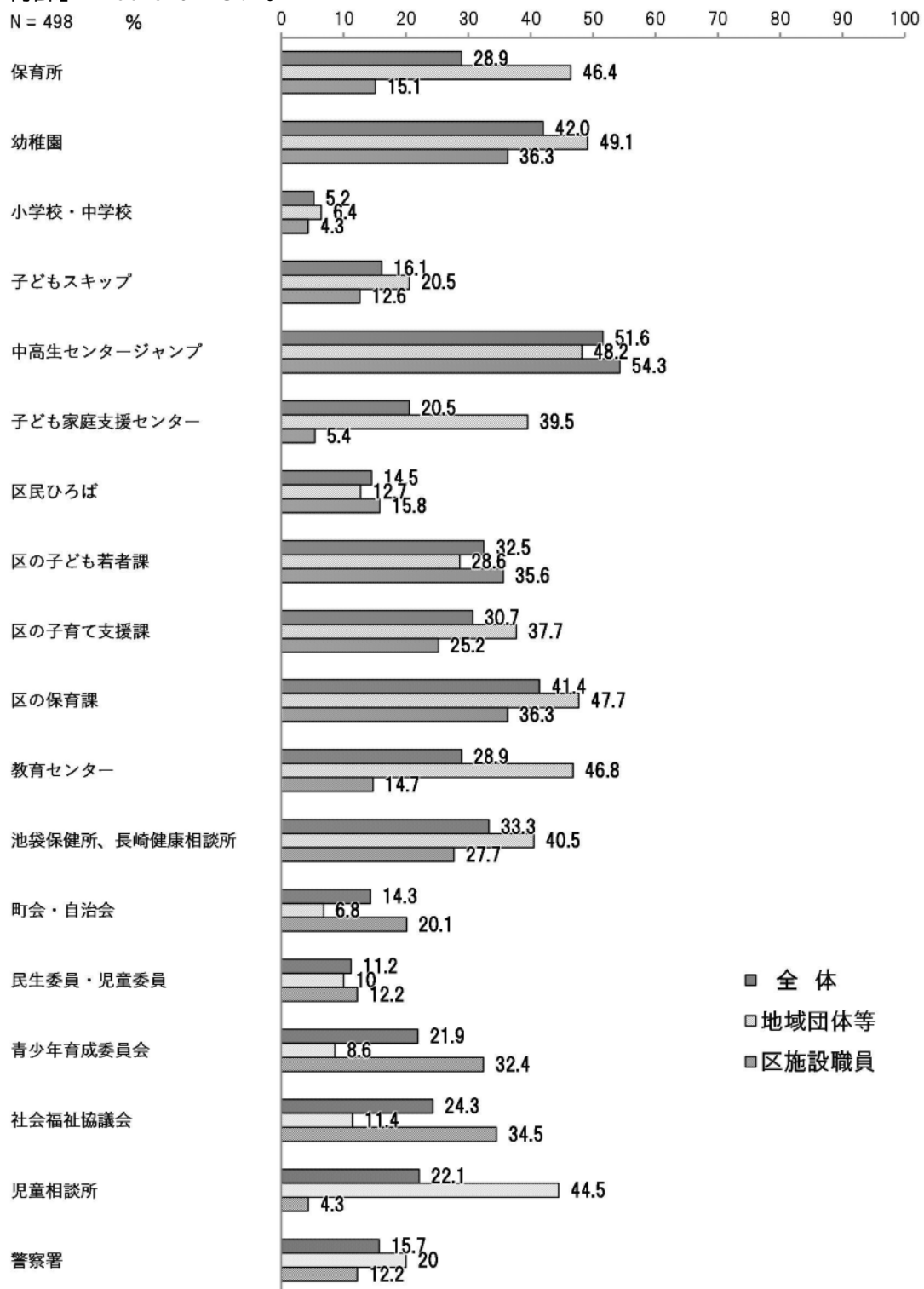
- ・ 全体は、「区民ひろば」が最も多く 38.2%、次いで「町会・自治会」が 35.3%、「小学校・中学校」が 31.3%でした。



団 8,職 10)

■ 3-1-5) あなたの団体や職場で、連携・協力していない機関や地域団体 (複数回答)

- ・ 地域団体等は「幼稚園」が最も多く 49.1%、次いで「中高生センタージャンプ」が 48.2%、「区の保育課」が 47.7%、「教育センター」が 46.8%、「児童相談所」が 44.5%でした。
- ・ 区施設職員は、「中高生センタージャンプ」が最も多く 54.3%、次いで「幼稚園」と「区の保育課」が 36.3%でした。



団 8,職 10)

第4章 アンケート調査結果

1 回答者属性

1-1 年齢

1-1-1) 子どもの年齢階層

- ・子どもの回答者数は合計で821となり、小学4-6年生が25.9%、中学生が21.9%、高校生等が18.0%となりました。若者について年齢階層を区分すると、「18-19歳」が5.4%、「20-24歳」が13.5%、「25-30歳」が15.2%でした。

調査数	年齢階層 上段：実数、下段：%					
	小学4-6年生	中学生	高校生等	18-19歳	20-24歳	25-30歳
821	213	180	148	44	111	125
100.0	25.9	21.9	18.0	5.4	13.5	15.2

1-1-2) 保護者回答による子どもの年齢

- ・保護者の回答者数は合計で1939となり、小学3年生以下については、年齢・学年あたり100票以上の回答を得られました。

調査数	年齢・学年 上段：実数、下段：%																		
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	高校1年生年齢	高校2年生年齢	高校3年生年齢	無回答
1939	143	137	128	139	135	127	115	128	125	90	98	89	82	65	60	75	58	39	106
100.0	7.4	7.1	6.6	7.2	7.0	6.5	5.9	6.6	6.4	4.6	5.1	4.6	4.2	3.4	3.1	3.9	3.0	2.0	5.5

1-2 子ども・若者の家族構成

- ・子どもから見た家族構成は、「ふたり親と子」が63.8%、「ひとり親と子」が10.2%、「三世代」が5.1%、単身が12.4%でした。

調査数	家族構成 上段：実数、下段：%						
	ふたり親と子	ひとり親と子	三世代	単身	パートナーと自分	その他	無回答
821	524	84	42	102	47	15	7
100.0	63.8	10.2	5.1	12.4	5.7	1.8	0.9

小中 F3 高 F3) 若 F5)

1-3 高校生等の状況

1-3-1) 通学

- ・「高等学校」と「高等専門学校や専修学校」の合計は95.3%でした。

	調査数	あなたは、現在、学校に在籍していますか。 上段：実数、下段：%				
		高等学校	高等専門学校や専修学校	左記の学校のいずれかに在籍したが中途退学した	左記の学校のいずれかに在籍したことがない	無回答
高校生等	148	139	2	1	1	5
	100.0	93.9	1.4	0.7	0.7	3.4

高 11)

1-4 若者の状況

1-4 1) 学歴

- ・ 若者「4年制大学・大学院」が最も多く 74.6%でした。

調査数	最後に卒業（中退を含む）した、または現在在学している学校 上段：実数、下段：%							
	中学校	高等学校（全日制）	高等学校（定時制・通信制・サポート校）	専門学校	4年制大学・大学院	高等専門学校・短期大学	その他	無回答
280	2	19	5	33	209	6	5	1
100.0	0.7	6.8	1.8	11.8	74.6	2.1	1.8	0.4

若 F3)

1-4 2) 就労状況

- ・ 「正規の社員・職員・従業員」が最も多く 48.9%で、次いで「学生・生徒（予備校生などを含む）」が 33.6%でした。

調査数	あなたの就学・就業状況 上段：実数、下段：%													
	学生・生徒（予備校生などを含む）	パート・アルバイト（学生除く）	派遣社員	契約社員・嘱託	正規の社員・職員・従業員	会社などの役員	自営業・自由業	家族従業者・内職	専業主婦・主夫	家事手伝い	無職（仕事を探している）	無職（仕事を探していない）	その他	無回答
280	94	20	2	5	137	3	5	0	4	2	5	2	1	0
100.0	33.6	7.1	0.7	1.8	48.9	1.1	1.8	0.0	1.4	0.7	1.8	0.7	0.4	0.0

若 F9)

1-4 3) 婚姻

- ・ 「結婚していない」が最も多く 87.1%でした。

調査数	あなたの現在の婚姻状況 上段：実数、下段：%			
	結婚している（事実婚を含む）	結婚したことはあるが、今はしていない	結婚していない	無回答
280	35	1	244	0
100.0	12.5	0.4	87.1	0.0

若 F4)

1-4 4) 生計

- ・ 生計をささえている人は、「あなた自身」が最も多く 46.1%、次いで「父親」が 33.6%でした。

調査数	生計を支えている方仕送りで生計を立てている方は、その仕送りをしている方 上段：実数、下段：%							
	あなた自身	父親	母親	配偶者・パートナー	兄弟姉妹	他の家族や親せき	わからない、答えられない	無回答
280	129	94	27	21	0	1	3	5
100.0	46.1	33.6	9.6	7.5	0.0	0.4	1.1	1.8

若 F6)

- ・ 生計をささえている人の主な収入源は、「就労、事業による収入（農業収入を含む）」が 95.4%でした。

調査数	主に生計を支えている方の主な収入源 上段：実数、下段：%						
	就労、事業による収入（農業収入を含む）	預金やその利息、財産からの収入（株の配当や不動産賃料など）	年金	生活保護	その他	わからない、答えられない	無回答
280	267	0	3	1	6	3	0
100.0	95.4	0.0	1.1	0.4	2.1	1.1	0.0

若 F7)

- ・ 暮らし向きは、「普通」が 48.9%で、「どちらかという低い」「低い」の合計は 12.9%でした。

調査数	あなたの暮らし向きは、世間一般と比べてみて、どれにあたると思われますか。 上段：実数、下段：%					
	高い	どちらかという高い	普通	どちらかという低い	低い	無回答
280	31	76	137	29	7	0
100.0	11.1	27.1	48.9	10.4	2.5	0.0

若 F8)

2 困難を抱える状況

2-1 広義のひきこもり群

本調査では、「こども・若者の意識と生活に関する調査」（令和5年3月内閣府）の定義による「広義のひきこもり群」を算出しました。

2-2 <広義のひきこもり群の定義の概要>

- ・ 普段の外出状況の問で「趣味の用事のときだけ」、「近所のコンビニなど」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からほとんど出ない」と回答し、かつ、その状況が6か月以上と回答した者
- ・ かつ、①～④以外の者
①病気、②「妊娠、介護の担い手、出産育児を理由に現在の状況になった、仕事が専業主婦や家事手伝い、普段自宅で家事、育児、介護・看護をしている」かつ「家族以外の人と会話した」、③仕事が会社役員、自営業・自由業、④「家族従業者・内職、仕事がパート・アルバイトや正社員、自宅で仕事をしていることを理由に現在の状況になった、普段自宅で仕事をする」かつ「現在、就業している」
- ・ 「狭義のひきこもり群」は0で、「準ひきこもり群」は2.4%、「狭義のひきこもり群」と「準ひきこもり群」である「広義の引きこもり群」は2.4%でした。

調査数	ひきこもり細区分 上段：実数、下段：%			
	狭義のひきこもり群	準ひきこもり群	広義のひきこもり群以外	無回答
452	0	11	431	10
100.0	0.0	2.4	95.4	2.2

2-3 生活困難について

本調査では、子育て世帯の困難状況を把握するため、所得と家計圧迫による生活困難度で区分し、経済的な背景による生活困難を抱えていると考えられる家庭の状況を分析しました。

生活困難度区分は、東京都子供の生活実態調査報告書【小中高校生等調査】の方法を参考にしました。生活困難層と一般層でクロス集計し、有意な差があった項目について、「第4章 6 子どもから把握した状況、7 保護者から把握した状況」に（クロス集計）

区分基準	目的・根拠	細区分		区分方法
生活困難	経済面での困難の状況を把握する 東京都子供の生活実態調査（平成29年3月）を参考	一般層		下記以外
		生	周辺層	困窮層の①～③のいずれかにあてはまる世帯
		生活困難層	困窮層	以下のすべてにあてはまる世帯 ①等価可処分所得 ^{※3} が厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」 ^{※4} による2021（令和3）年の貧困線「127万円」未満 ②家計の圧迫（電気料金、ガス料金、水道料金、食料、衣服が払えない状況） ③子どもの体験や所有物に関する15項目 ^{※5} のうち経済的な理由で欠如しているのが3項目以上

区分（判断）した設問については、「第4章 3-2 生活困難の状況判断の項目とその関連状況」を参照してください。

- ・「困窮層」は6.9%、「周辺層」は13.1%、「困窮層」と「周辺層」である「生活困難層」は19.9%でした。

調査数	生活困難層区分 上段：実数、下段：%			
	生活困難層			一般層
		困窮層	周辺層	
452	90	31	59	362
100.0	19.9	6.9	13.1	80.1

※3 収入のうち、税金や社会保険料などを除いた所得で、自分で自由に使える手取り収入のこと。給与所得者の場合は、「給与収入金額－（社会保険料＋所得税・住民税の額）」がこれに当たる。

※4 保健、医療、福祉、年金、所得など国民生活の基礎的な事柄について調査することを目的として、1986年（昭和61年）から厚生労働省が毎年実施している。相対的貧困率については3年ごとに算出されている。

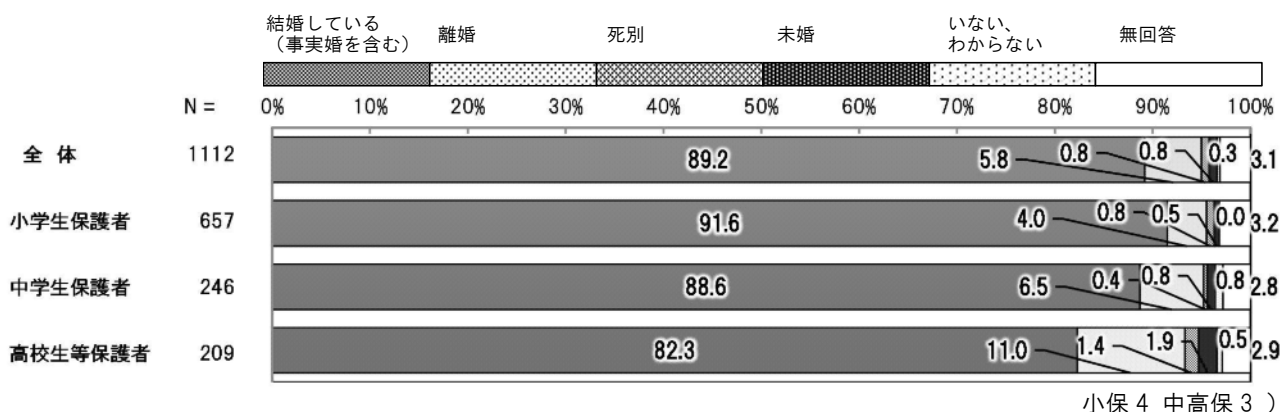
※5 子どもの体験や所有物に関する15項目：1)海水浴に行く、2)博物館・科学館・美術館などに行く、3)キャンプやバーベキューに行く、4)スポーツ観戦や劇場に行く、5)遊園地やテーマパークに行く、6)毎月お小遣いを渡す、7)毎年新しい（お古でない）洋服・靴を買う、8)習い事（音楽、スポーツ、習字（しゅうじ）等）に通わせる、9)学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう、オンライン含む）、10)お誕生日のお祝いをする、11)年に1回くらい家族旅行に行く、12)クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる、13)修学旅行などお金がかかる学校の活動、14)パソコンかタブレットを与える、15)スマートフォンを与える

3 子どもがいる世帯の状況、子どもの学力と幸福度

3-1 婚姻や世帯構成

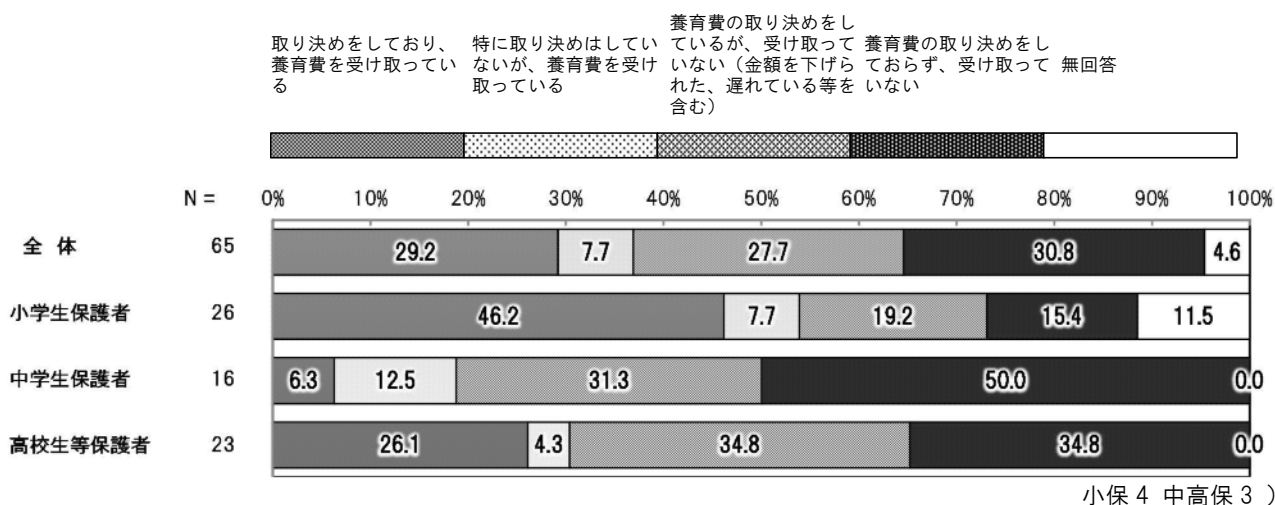
■ 3-1-1) お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。 SA

- 小学生保護者、中学生保護者、高校生等保護者はいずれも「結婚している（事実婚を含む）」が最も多く、小学生保護者で 91.6%、中学生保護者で 88.6%、高校生等保護者で 82.3%でした。いずれも次いで「離婚」が多く小学生保護者で 4.0%、中学生保護者で 6.5%、高校生等保護者で 11.0%でした。



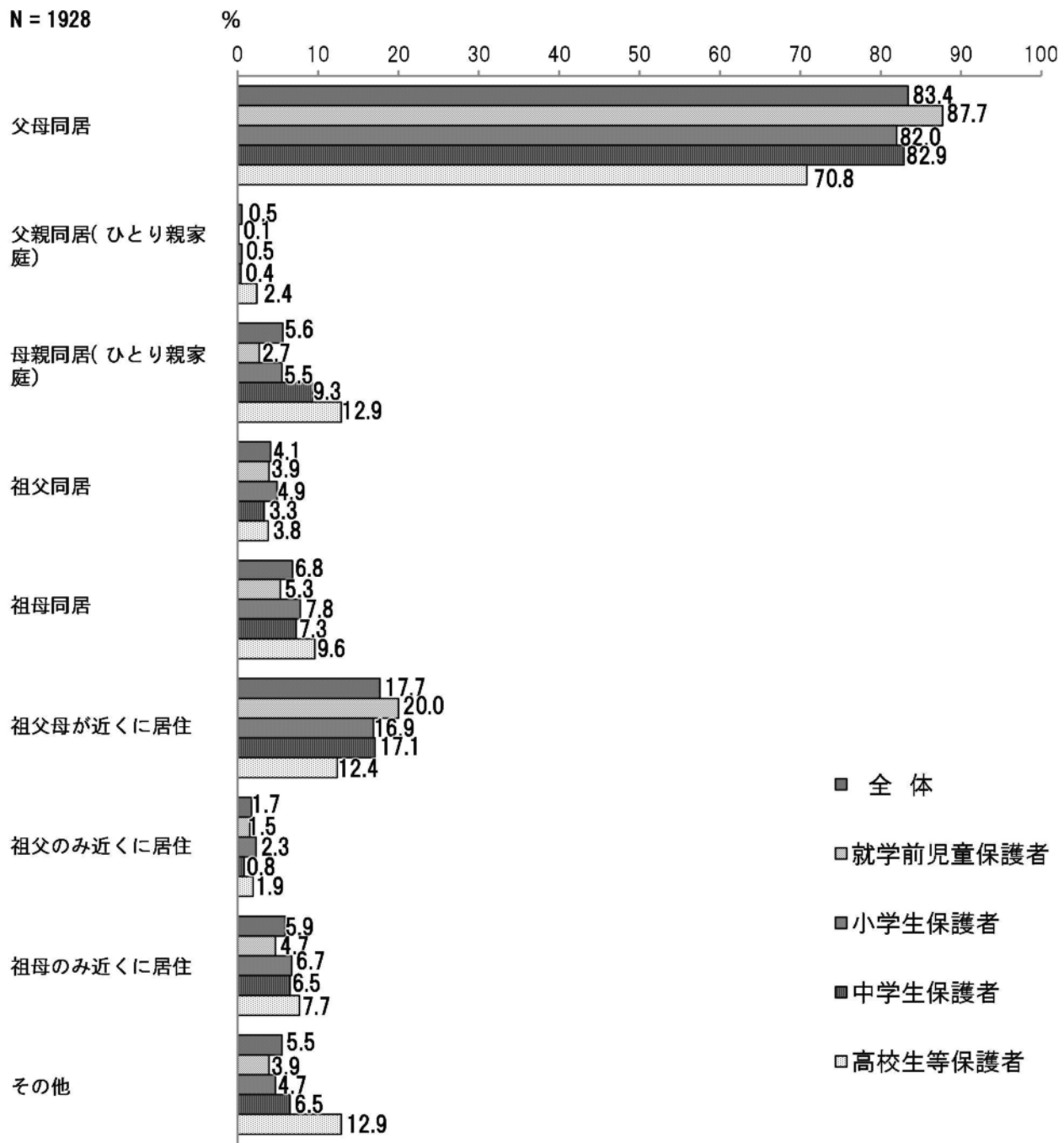
■ 3-1-2) 離婚相手と子供の養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。 SA

- 小学生保護者は「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が最も多く 46.2%、次いで「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない（金額を下げられた、遅れている等を含む）」が 19.2%でした。
- 中学生保護者は「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が最も多く 50.0%、次いで「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない（金額を下げられた、遅れている等を含む）」が 31.3%でした。
- 高校生等保護者は「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない（金額を下げられた、遅れている等を含む）」と「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が最も多く 34.8%でした。



■ 3-1-3) お子さんと同居されているご家族と、近くに住んでいらっしゃる方の状況について。（複数回答）

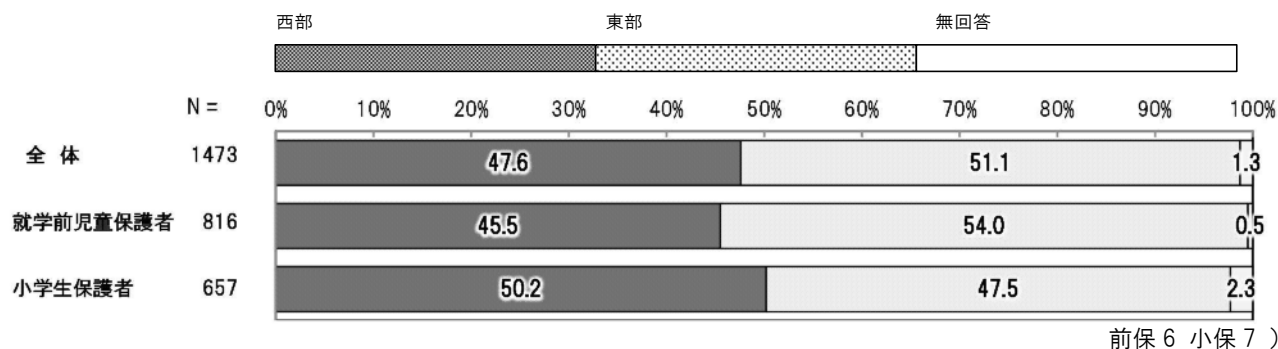
- ・ 小学生保護者と中学生保護者はどちらも「父母同居」が最も多く小学生保護者で 82.0%、中学生保護者で 82.9%、次いで「祖父母が近くに居住」が小学生保護者で 16.9%、中学生保護者で 17.1%でした。



前保 5 小保 6 中高保 5)

■ 3-1-4) お住まいのまちはどちらですか。 SA

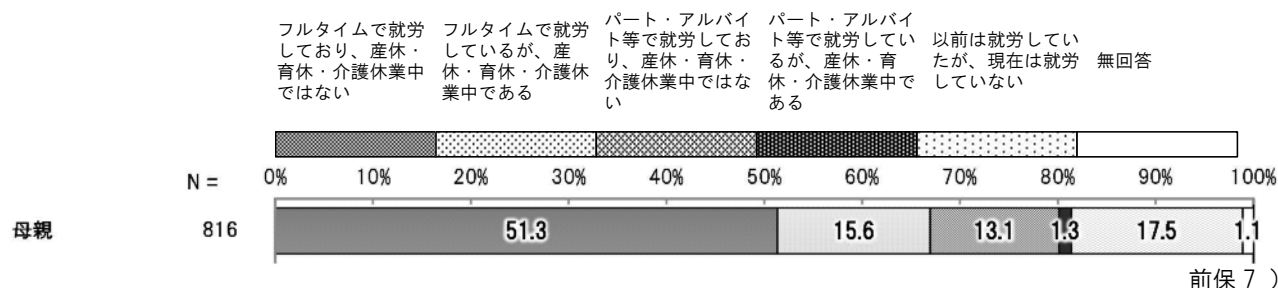
- ・ 就学前児童保護者は「西部」が 45.5%、「東部」が 54.0%で、小学生保護者は「西部」が 50.2%、「東部」が 47.5%でした。



前保 6 小保 7)

■ 3-1-5) お子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。 : 母親 SA

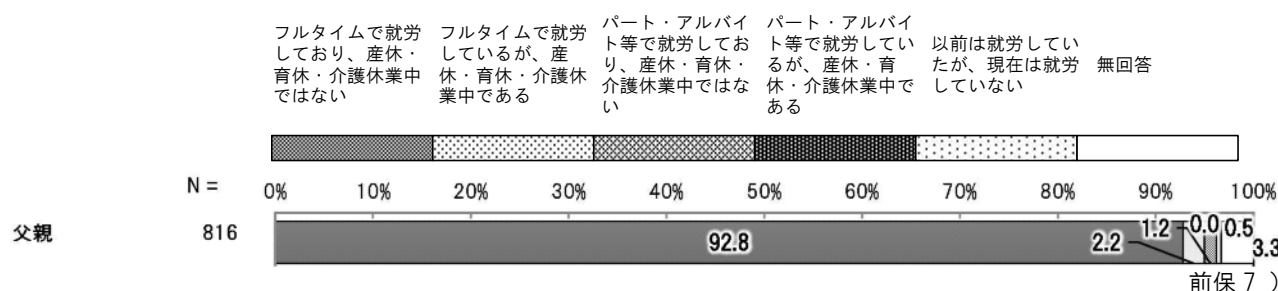
- ・ 母親は「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も多く 51.3%、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 17.5%でした。



前保 7)

■ 3-1-6) お子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。 : 父親 SA

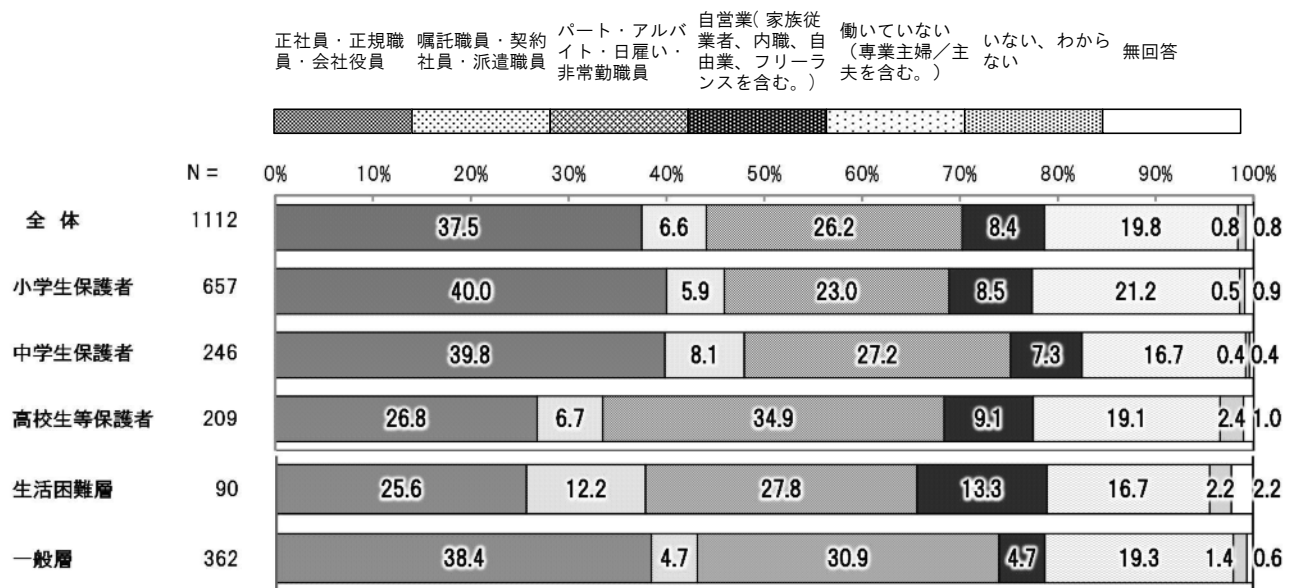
- ・ 父親は「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も多く 92.8%でした。



前保 7)

■ 3-1-7) お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。：ア 母親 SA

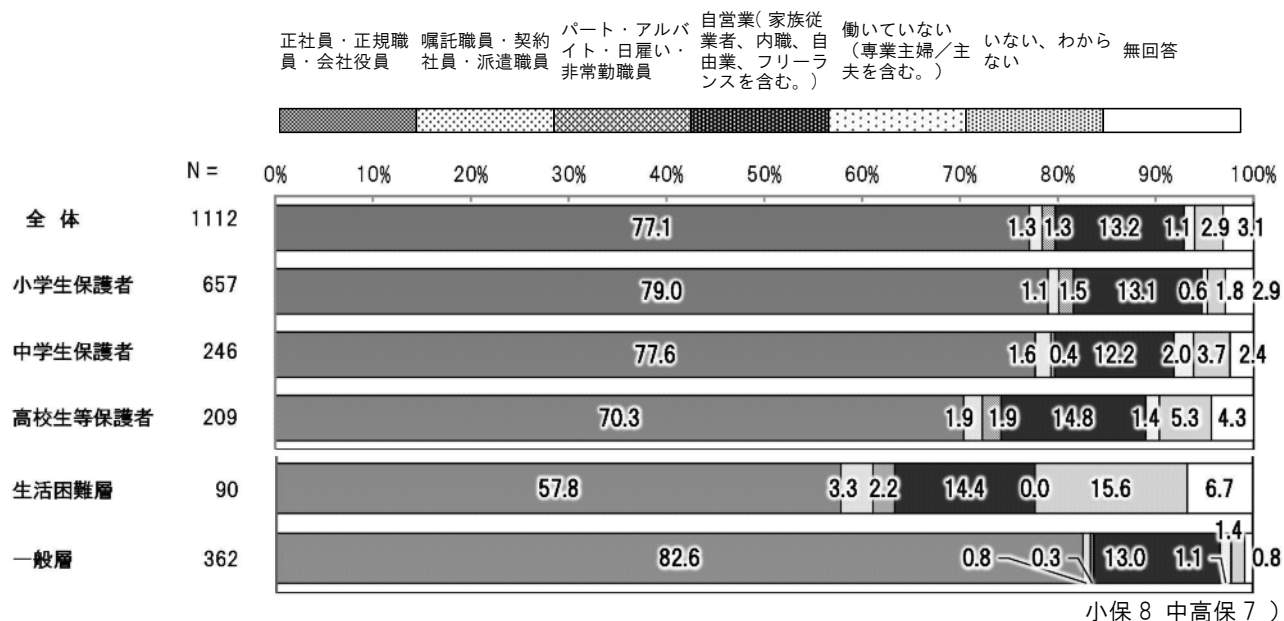
- ・ 母親のうち、小学生保護者と中学生保護者は「正社員・正規職員・会社役員」が最も多く小学生保護者で 40.0%、中学生保護者で 39.8%、次いで「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が小学生保護者で 23.0%、中学生保護者で 27.2%でした。
- ・ 生活困難層は「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が最も多く 27.8%、次いで「正社員・正規職員・会社役員」が 25.6%でした。
- ・ 一般層は「正社員・正規職員・会社役員」が最も多く 38.4%、次いで「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が 30.9%でした。



小保 8 中高保 7)

■ 3-1-8) お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。：イ 父親 SA

- ・ 父親のうち、小学生保護者、中学生保護者、高校生等保護者はいずれも「正社員・正規職員・会社役員」が最も多く小学生保護者で 79.0%、中学生保護者で 77.6%、高校生等保護者で 70.3%でした。いずれも次いで「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)」が多く小学生保護者で 13.1%、中学生保護者で 12.2%、高校生等保護者で 14.8%でした。
- ・ 生活困難層と一般層はいずれも「正社員・正規職員・会社役員」が最も多く、生活困難層で 57.8%、一般層で 82.6%、次いで生活困難層で「いない、わからない」が 15.6%、一般層で「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)」が 13.0%でした。



3-2 生活困難の状況判断の項目とその関連状況

子育て世帯の生活困難状況判断した項目は、次の通りでした。

■3-2-1) 2022年(令和4年1月から令和4年12月)の世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。 SA

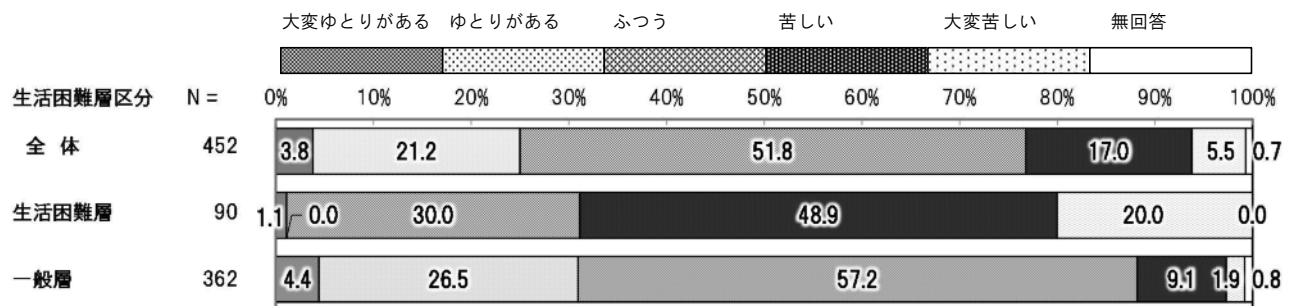
- ・小学生保護者と中学生保護者、高校生等保護者はいずれも「1000万円以上」が最も多く小学生保護者で17.7%、中学生保護者で50.4%、高校生等保護者で45.9%でした。次いで「900～1000万円未満」が多く、小学生保護者で5.6%、中学生保護者で8.5%、高校生等保護者で7.2%でした。

		調査数	2022年（令和4 年1月から令和4 年12月）の世帯全体のおおよその年間収入（税込）はいくらですか 上段：実数、下段：％																
			50万 円未満	50～ 100万 円未満	100～ 150万 円未満	150～ 200万 円未満	200～ 250万 円未満	250～ 300万 円未満	300～ 350万 円未満	350～ 400万 円未満	400～ 450万 円未満	450～ 500万 円未満	500～ 600万 円未満	600～ 700万 円未満	700～ 800万 円未満	800～ 900万 円未満	900～ 1000 万円未 満	1000 万円以 上	無回答
全 体		1112	9	9	5	9	7	9	19	19	21	14	50	42	52	45	73	336	393
		100.0	0.8	0.8	0.4	0.8	0.6	0.8	1.7	1.7	1.9	1.3	4.5	3.8	4.7	4	6.6	30.2	35.3
対 象	小学生保 護者	657	2	1	2	3	3	0	7	7	7	7	19	19	22	20	37	116	385
		100.0	0.3	0.2	0.3	0.5	0.5	0	1.1	1.1	1.1	1.1	2.9	2.9	3.3	3	5.6	17.7	58.6
	中学生保 護者	246	4	3	1	1	1	4	3	3	8	4	14	12	20	17	21	124	6
		100.0	1.6	1.2	0.4	0.4	0.4	1.6	1.2	1.2	3.3	1.6	5.7	4.9	8.1	6.9	8.5	50.4	2.4
	高校生等 保護者	209	3	5	2	5	3	5	9	9	6	3	17	11	10	8	15	96	2
		100.0	1.4	2.4	1	2.4	1.4	2.4	4.3	4.3	2.9	1.4	8.1	5.3	4.8	3.8	7.2	45.9	1

小保 29 中高保 8)

■3-2-2) 小保 31 中高保 19) あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。 SA

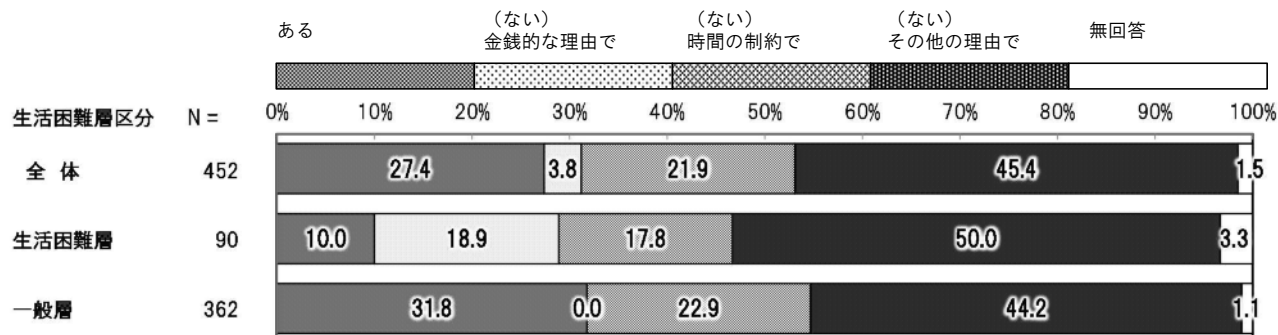
- ・生活困難層は「苦しい」が最も多く48.9%、次いで「ふつう」が30.0%でした。
- ・一般層は「ふつう」が最も多く57.2%、次いで「ゆとりがある」が26.5%でした。



小保 31 中高保 19)

■ 3-2-3) 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。：ア 海水浴に行く SA

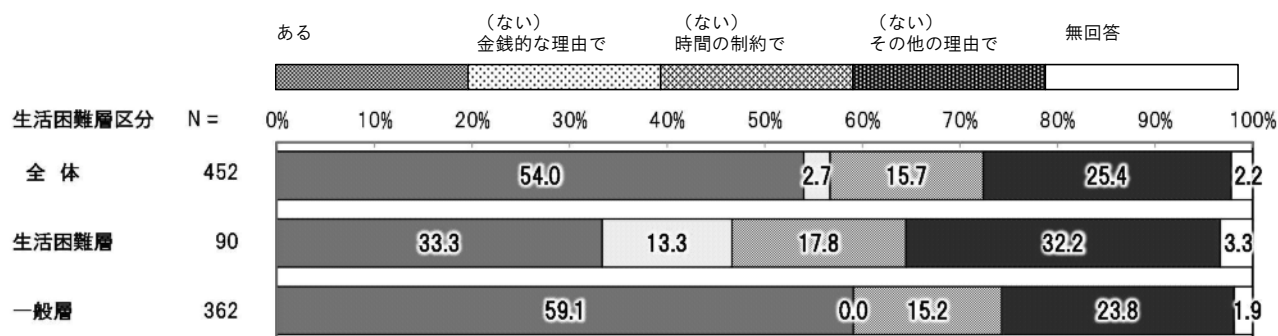
- ・生活困難層は「(ない) その他の理由で」が最も多く50%、次いで「(ない) 金銭的な理由で」が18.9%でした。
- ・一般層は「(ない) その他の理由で」が最も多く44.2%、次いで「ある」が31.8%でした。



小保 32 中高保 20)

■ 3-2-4) 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。：イ 博物館・科学館・美術館などに行く SA

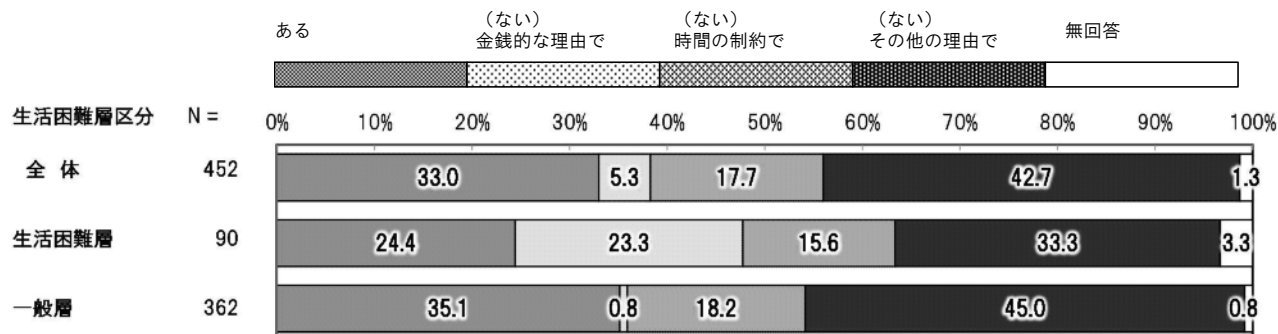
- ・生活困難層と一般層は「ある」が最も多く生活困難層で33.3%、一般層で59.1%、次いで「(ない) その他の理由で」が多く生活困難層で32.2%、一般層で23.8%でした。



小保 32 中高保 20)

■ 3-2-5) 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。：ウ キャンプやバーベキューに行く SA

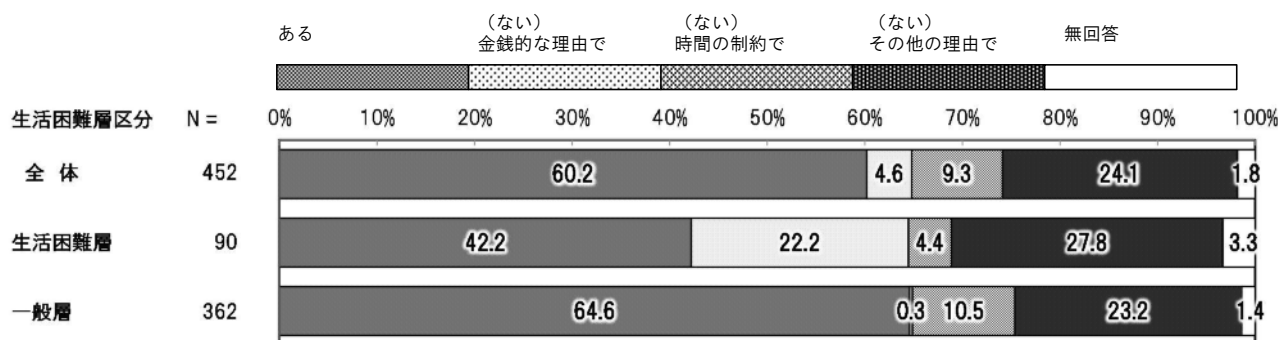
- ・生活困難層と一般層は「(ない) その他の理由で」が最も多く生活困難層で33.3%、一般層で45%、次いで「ある」が多く生活困難層で24.4%、一般層で35.1%でした。



小保 32 中高保 20)

■ 3-2-6) 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。：エ スポーツ観戦や劇場に行く SA

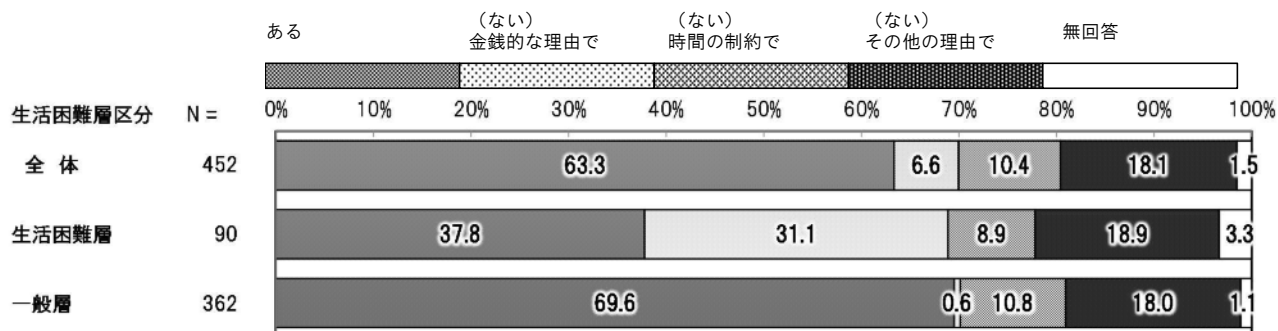
- ・生活困難層と一般層は「ある」が最も多く生活困難層で42.2%、一般層で64.6%、次いで「(ない) その他の理由で」が多く生活困難層で27.8%、一般層で23.2%でした。



小保 32 中高保 20)

■ 3-2-7) 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。：オ 遊園地やテーマパークに行く SA

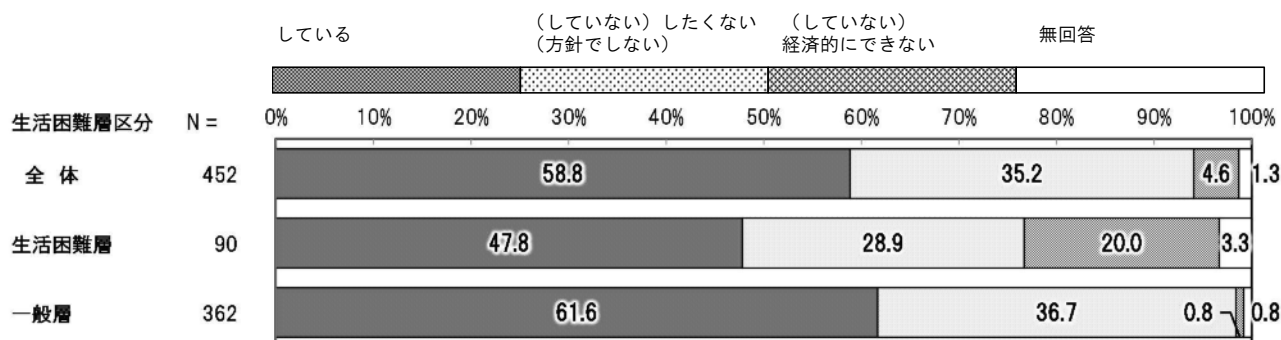
- ・生活困難層は「ある」が最も多く37.8%、次いで「(ない) 金銭的な理由で」が31.1%でした。
- ・一般層は「ある」が最も多く69.6%、次いで「(ない) その他の理由で」が18%でした。



小保 32 中高保 20)

■ 3-2-8) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：ア 毎月お小遣いを渡す SA

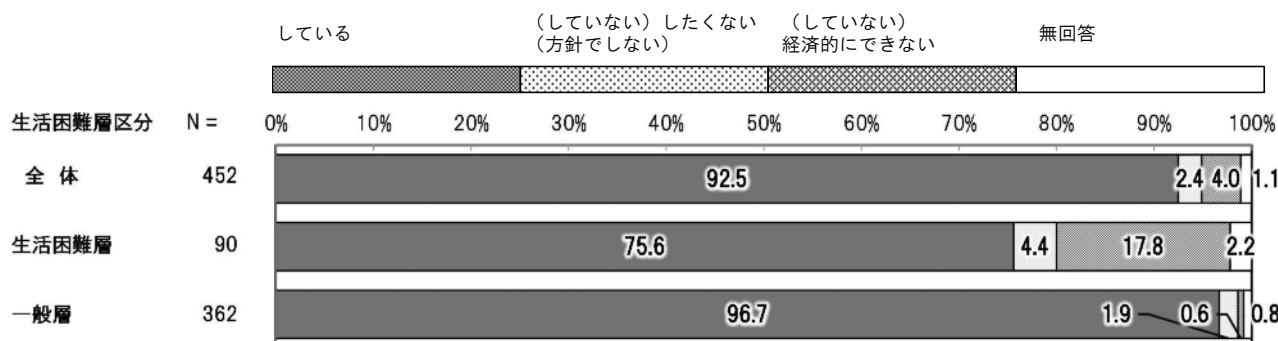
- ・生活困難層と一般層は「している」が最も多く生活困難層で47.8%、一般層で61.6%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が生活困難層で28.9%、一般層で36.7%でした。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-9) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：イ 毎年新しい（お古でない）洋服・靴を買う SA

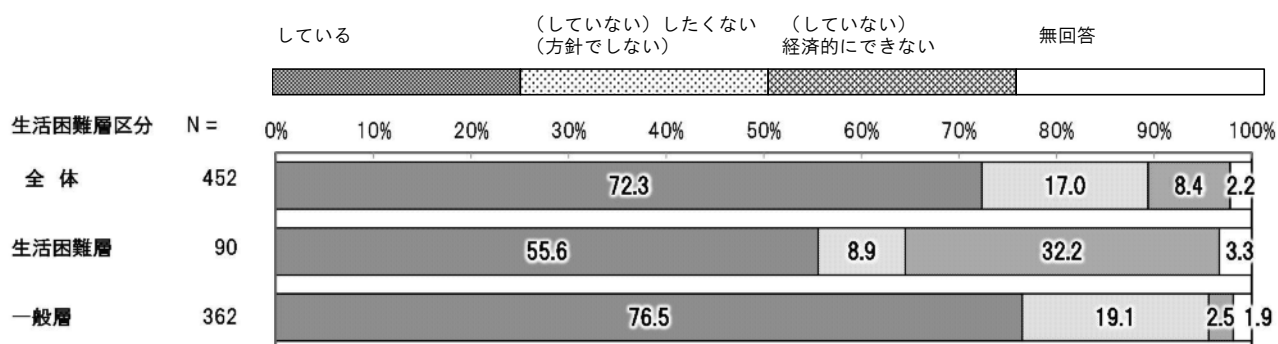
- ・生活困難層は「している」が最も多く 75.6%、次いで「(していない) 経済的にできない」が 17.8%でした。一般層は「している」が最も多く 96.7%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 1.9%でした。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-10) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：ウ 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる SA

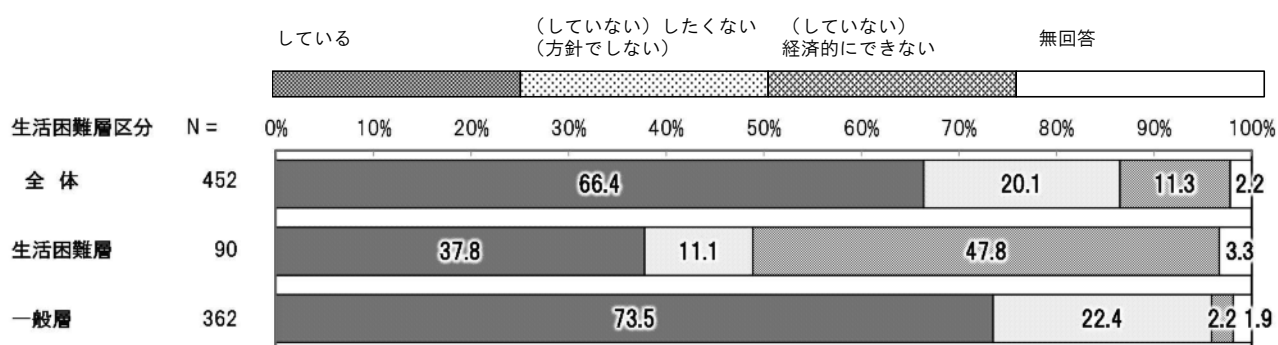
- ・生活困難層は「している」が最も多く 55.6%、次いで「(していない) 経済的にできない」が 32.2%でした。一般層は「している」が最も多く 76.5%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 19.1%でした。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-11) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：エ 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう、オンライン含む） SA

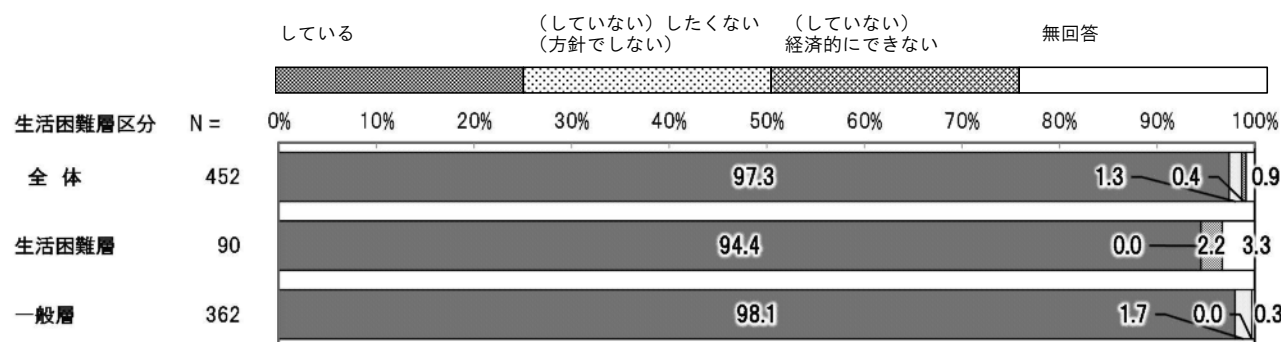
- ・生活困難層は「(していない) 経済的にできない」が最も多く 47.8%、次いで「している」が 37.8%でした。
- ・一般層は「している」が最も多く 73.5%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 22.4%でした。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-1 2) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：オ お誕生日のお祝いをする SA

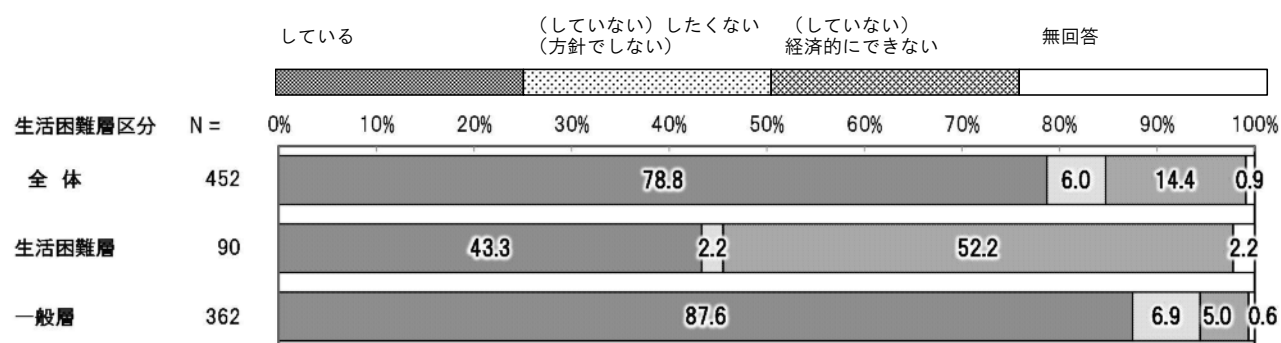
- ・生活困難層と一般層は「している」が最も多く生活困難層で 94.4%、一般層で 98.1%した。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-1 3) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：カ 1年に1回くらい家族旅行に行く SA

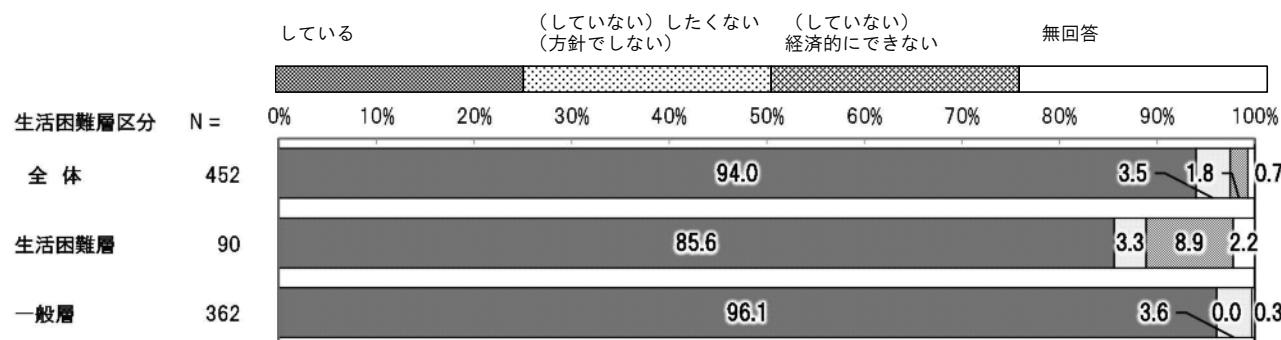
- ・生活困難層は「(していない) 経済的にできない」が最も多く 52.2%、次いで「している」が 43.3%でした。
- ・一般層は「している」が最も多く 87.6%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 6.9%でした。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-1 4) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：キ クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる SA

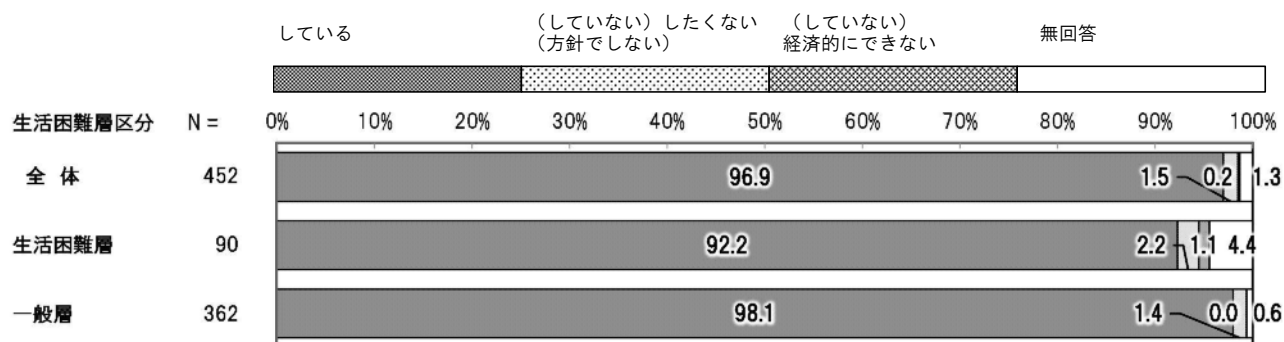
- ・生活困難層は「している」が最も多く 85.6%、次いで「(していない) 経済的にできない」が 8.9%でした。
- ・一般層は「している」が最も多く 96.1%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 3.6%でした。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-1 5) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：ク 修学旅行などお金がかかる学校の活動 SA

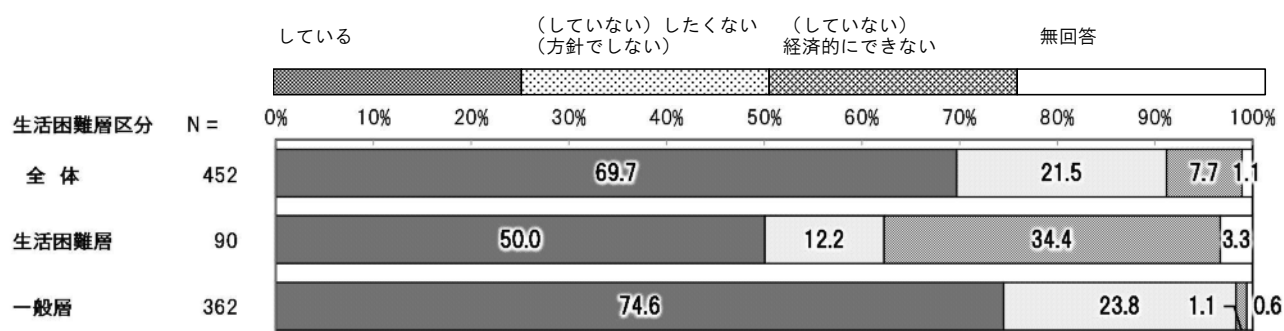
- ・生活困難層は「している」が最も多く 92.2%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 2.2%でした。
- ・一般層は「している」が最も多く 98.1%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 1.4%でした。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-1 6) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：ケ パソコンかタブレットを与える SA

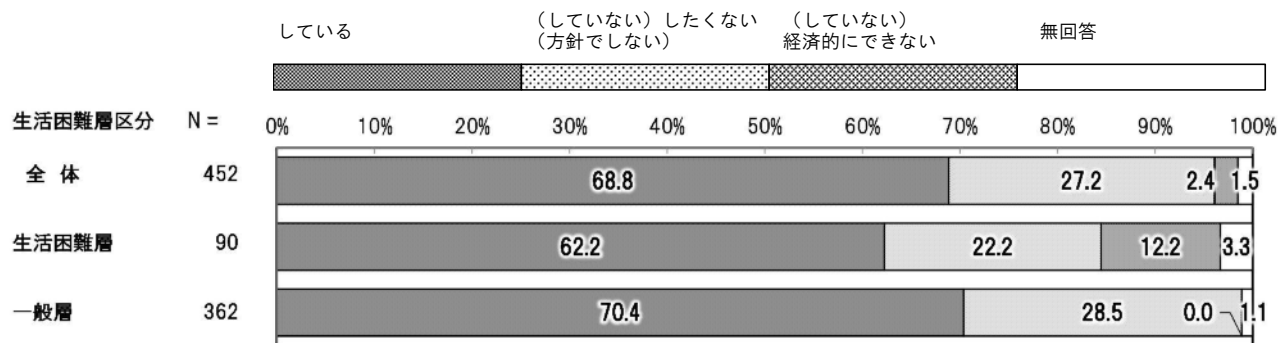
- ・生活困難層は「している」が最も多く 50.0%、次いで「(していない) 経済的にできない」が 34.4%でした。
- ・一般層は「している」が最も多く 74.6%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 23.8%でした。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-1 7) あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。：コ スマートフォン
を与える SA

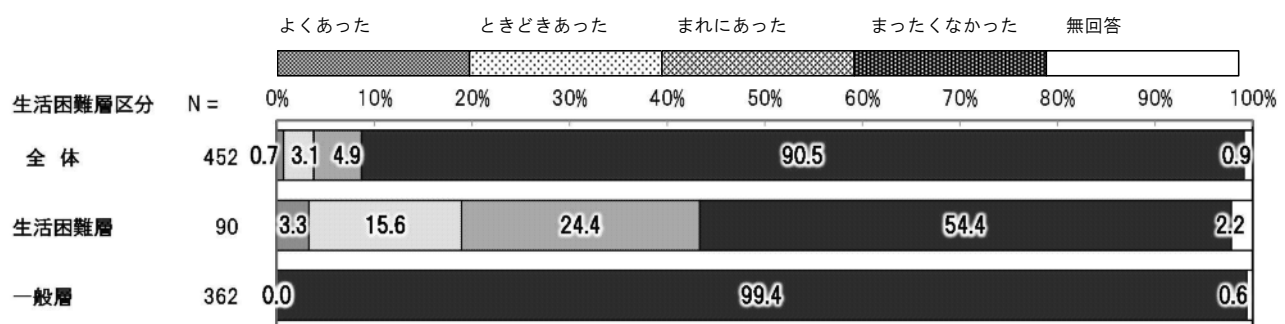
- ・生活困難層は「している」が最も多く 62.2%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 22.2%でした。
- ・一般層は「している」が最も多く 70.4%、次いで「(していない) したくない (方針でしない)」が 28.5%でした。



小保 33 中高保 21)

■ 3-2-1 8) あなたの世帯では、過去 1 年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料
が買えないことがありましたか。 SA

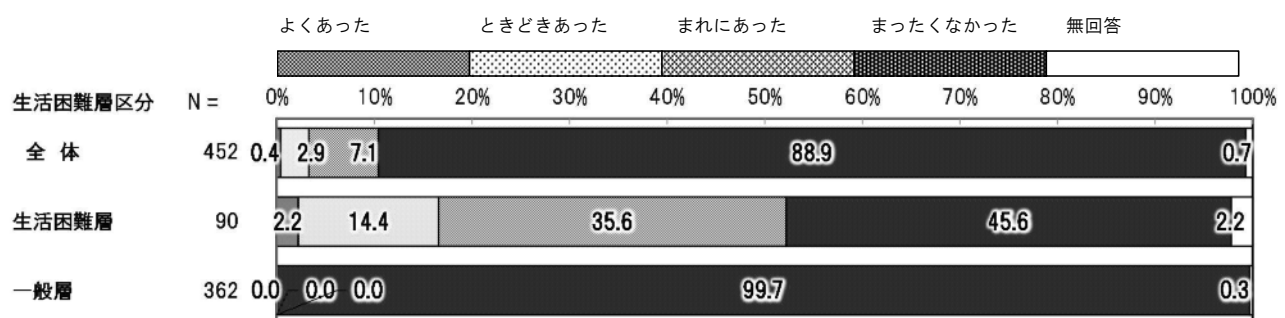
- ・生活困難層は「まったくなかった」が最も多く 54.4%、次いで「まれにあった」が 24.4%でした。一般層は「まったくなかった」が最も多く 99.4%でした。



小保 34 中高保 23)

■ 3-2-1 9) あなたの世帯では、過去 1 年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服
が買えないことがありましたか。 SA

- ・生活困難層は「まったくなかった」が最も多く 45.6%、次いで「まれにあった」が 35.6%でした。一般層は「まったくなかった」が最も多く 99.7%でした。

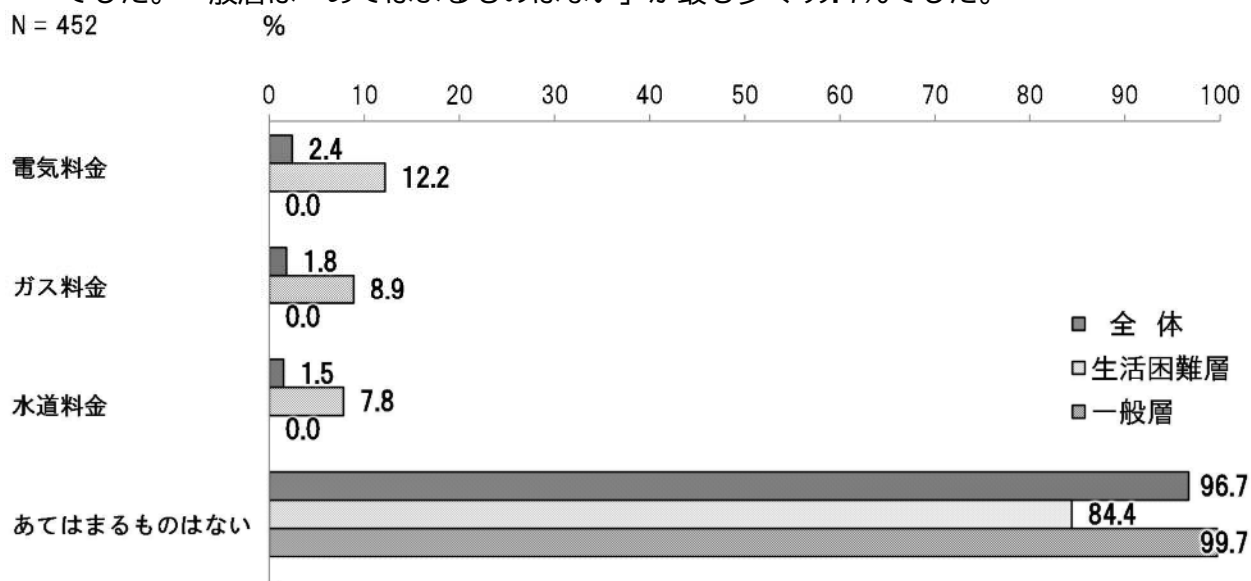


小保 35 中高保 24)

■ 3-2-20) あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありますか。（複数回答）

- ・生活困難層は「あてはまるものはない」が最も多く 84.4%、次いで「電気料金」が 12.2% でした。一般層は「あてはまるものはない」が最も多く 99.7% でした。

N = 452

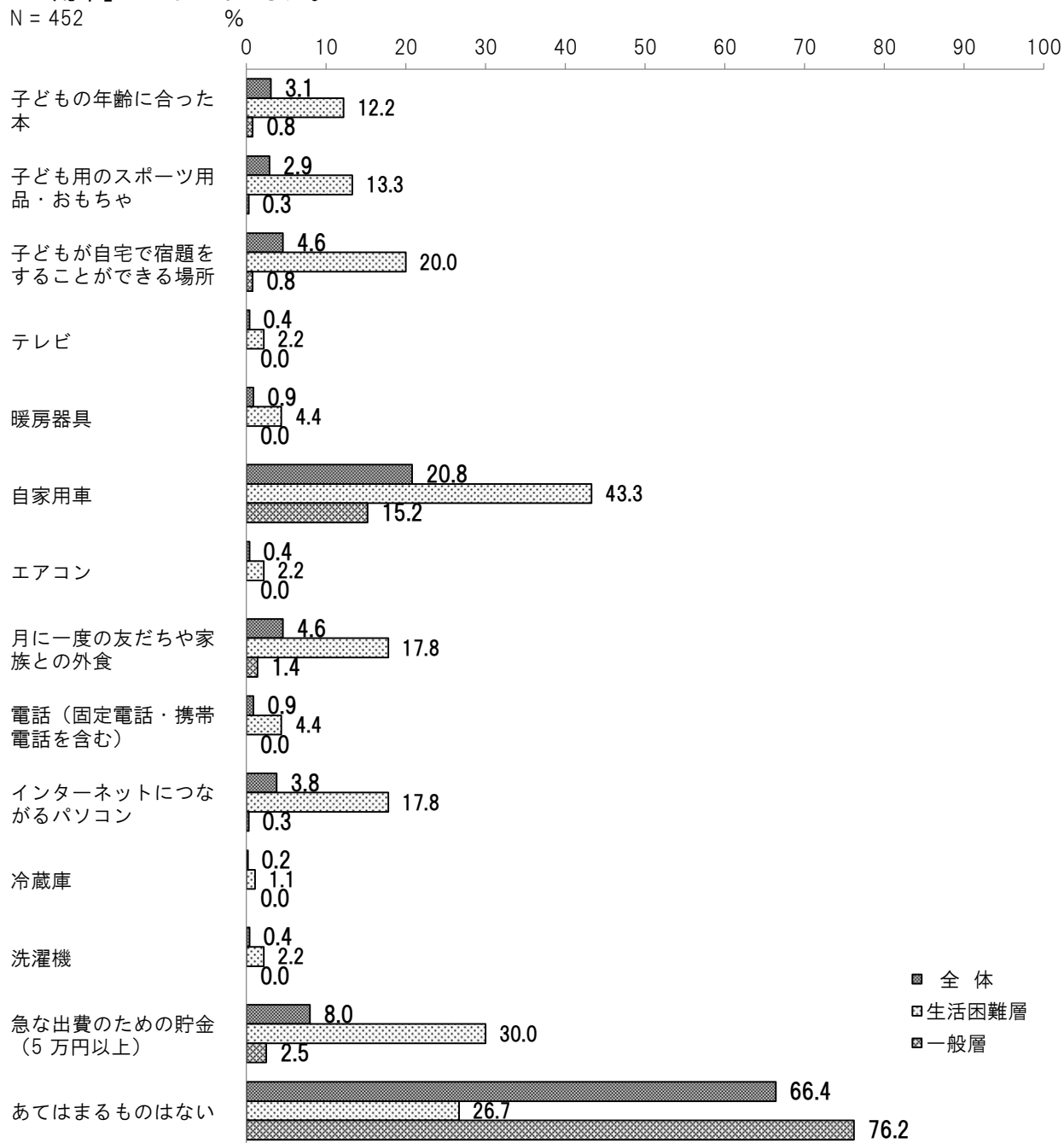


小保 36 中高保 25)

■ 3-2-2 1) 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはどれですか。
(複数回答)

- ・生活困難層は「自家用車」が最も多く 43.3%、次いで「急な出費のための貯金（5 万円以上）」が 30%でした。一般層は「あてはまるものはない」が最も多く 76.2%、次いで「自家用車」が 15.2%でした。

N = 452



小保 37 中高保 22)